

# 2025年度 建築積算士試験【二次試験】実務知識についての問題

問題と解説

## 建築積算士試験【二次試験】実務知識についての問題

目次	I. 実技試験	問題	解答と解説	(該当ページ範囲)
		問題Ⅰ	〈内訳〉 [実技1]	～ [実技3]
		問題Ⅱ	〈RC〉 [実技4]	～ [実技21]
		問題Ⅲ	〈仕上〉 [実技22]	～ [実技35]
		問題Ⅳ	〈鉄骨〉 [実技36]	～ [実技44]
	II. 短文記述	問題1	[短文]	
		問題2	[短文]	

### 複数正解値について

計測・計算における端数処理については、建築数量積算基準 第1編総則5(3)に次のように規定されており、これにより生ずる差は通常の誤差の範囲として許容されています。

(3)計測寸法の単位はmとし、小数点以下第2位とする。計測・計算過程においても小数点以下第2位とすることができる。また、計算結果における長さ、面積、体積及び質量についても、小数点第2位以下とすることができる。なお、設計図書から得られる電子データの小数点以下第2位以下の数値については、その数値を活用してもよい。

本試験においては、計測・計算過程により差が発生する場合は、その解答は正答としていますが、本解説では、そのうちの一つについて計測・計算方法の解説をしています。

2025年度 建築積算士試験 【二次試験】

問題 I-1 「新☆建築積算士ガイドブック」、「建築数量積算基準」および「建築工事内訳書標準書式」に従って、下記の土工数量集計表をもとに細目別内訳の①～⑤の数量を解答用紙の所定の欄に記入しなさい。  
 また、細目別内訳の⑥～⑩の金額を算出し、解答用紙の所定の欄に記入しなさい。  
 なお、埋戻し及び盛土に用いる土は、敷地内に一時仮置きした根切土（構内堆積土）を用いるものとする。

土工数量集計表

名称	摘要	数量	単位
根切り	つぼ・布堀	301.54	m <sup>3</sup>
床付け		143.29	m <sup>2</sup>
埋戻し	構内堆積土	168.56	m <sup>3</sup>
盛土	構内堆積土	35.78	m <sup>3</sup>

細目別内訳

名称	摘要	数量	単位	単価	金額(円)
根切り	つぼ・布堀	①	m <sup>3</sup>	750	⑥
床付け		②	m <sup>2</sup>	350	⑦
埋戻し	構内堆積土	③	m <sup>3</sup>	1,070	⑧
盛土	構内堆積土	④	m <sup>3</sup>	1,110	⑨
建設発生土処理	場外搬出 運搬・処分共	⑤	m <sup>3</sup>	3,200	⑩
土工機械運搬		1	式		175 000
計					—

問題 I-2 「新☆建築積算士ガイドブック」、「建築数量積算基準」および「建築工事内訳書標準書式」に従って、下記の種目別内訳書の⑪および⑫の名称を解答用紙の所定の欄に記入しなさい。  
 また、⑬～⑮の金額を算出し、解答用紙の所定の欄に記入しなさい。  
 ただし、⑬～⑮は、表-1、表-2、表-3を用いて算出し、金額は千円未満を切り捨てること。

種目別内訳書

名称	摘要	数量	単位	金額 (円)		
直接工事費						
I A事務所	新築	1	式	483	250	000
II 構内舗装	新設	1	式	46	523	000
計				529	773	000
共通費						
共通仮設費		1	式	⑬		
⑪		1	式	⑭		
一般管理費等		1	式	⑮		
計					—	
合計 (⑫)		1	式		—	
消費税等相当額	10%	1	式		—	
総合計 (工事費)		1	式		—	

表-1 共通仮設費率

直接工事費 (円)	共通仮設費率 (%)
400,000,001 ~ 500,000,000	5.27
500,000,001 ~ 600,000,000	4.98
600,000,001 ~ 700,000,000	4.75
700,000,001 ~ 800,000,000	4.56

表-2 ⑪ 率

純工事費 (円)	⑪ 率 (%)
400,000,001 ~ 500,000,000	14.86
500,000,001 ~ 600,000,000	13.60
600,000,001 ~ 700,000,000	12.63
700,000,001 ~ 800,000,000	11.86

表-3 一般管理費等率

工事原価 (円)	一般管理費等率 (%)
400,000,001 ~ 500,000,000	11.10
500,000,001 ~ 600,000,000	10.78
600,000,001 ~ 700,000,000	10.52
700,000,001 ~ 800,000,000	10.31

問題 I-1

細目別内訳

名 称	数 量
根 切 り	① 3 0 2
床 付 け	② 1 4 3
埋 戻 し	③ 1 6 9
盛 土	④ 3 5.8
建設発生土処理	⑤ 9 7.2

名 称	金 額 (円)
根 切 り	⑥ 2 2 6 5 0 0
床 付 け	⑦ 5 0 0 5 0
埋 戻 し	⑧ 1 8 0 8 3 0
盛 土	⑨ 3 9 7 3 8
建設発生土処理	⑩ 3 1 1 0 4 0

問題 I-2

種目別内訳

名 称	⑪ 現場管理費 または 現場経費
	⑫ 工事価格

名 称	金 額 (円)
共 通 仮 設 費	⑬ 2 6 3 8 2 0 0 0
⑪	⑭ 7 5 6 3 7 0 0 0
一 般 管 理 費 等	⑮ 6 6 4 6 4 0 0 0

⑬	直接工事費 × 共通仮設費率	共通仮設費
	529,773,000 × 0.0498 = 26,382,695 千円未満切り捨て→	26,382,000
⑭	直接工事費 + 共通仮設費 = 純工事費	
	529,773,000 + 26,382,000 = 556,155,000	
	純工事費 × 現場管理費率	現場管理費
	556,155,000 × 0.1360 = 75,637,080 千円未満切り捨て→	75,637,000
⑮	純工事費 + 現場管理費 = 工事原価	
	556,155,000 + 75,637,000 = 631,792,000	
	工事原価 × 一般管理費等率	一般管理費等
	631,792,000 × 0.1052 = 66,464,518 千円未満切り捨て→	66,464,000

2025年度 建築積算士試験 【二次試験】

問題Ⅱ 図面Ⅱ-1からⅡ-5までについて、以下の1～7の設計数量(鉄筋は長さ)を「新☆建築積算士ガイドブック」および「建築数量積算基準」に従って計測・計算し、解答用紙の所定の欄に記入しなさい。  
 鉄筋のフック、定着、重ね継手については、図面Ⅱ-1共通配筋図を使用し、鉄筋径の倍数長さは、右記の表を使用しなさい。  
 解答は、小数点以下第3位を四捨五入して、小数点以下第2位までを記入しなさい。

1. 基礎	F1	[X1通り、Y1通り]	1か所
2. 基礎梁	FG1	[Y1通り、X1～X2通り間]	1か所
3. 2階柱	C1	[X3通り、Y2通り]	1か所
4. R階大梁	G1	[X3通り、Y1～Y2通り間]	1か所
5. 2階小梁	B1	[Y1+4000通り、X1～X2通り間]	1か所
6. 1階壁	W18	[X3通り、Y1～Y2通り間]	1か所
7. 2階床板	S2	[X2～X3通り、Y1+4000～Y2通り間]	1か所

特記事項

- a. 図面の○印は計測・計算の対象部材を示す。
- b. 定着および重ね継手のフックは無しとする。
- c. D19以上の鉄筋は圧接継手とする。

使用材料

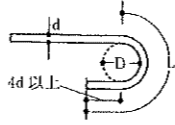
コンクリート	使用区分	コンクリート設計基準強度
普通コンクリート	躯体全般	24N/mm <sup>2</sup>

鉄筋	規格	種類	径	継手
異形鉄筋	JIS G3112	SD295	D10、D13、D16	重ね
異形鉄筋	JIS G3112	SD345	D19、D22、D25	圧接

鉄筋の断面表示

異形	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
記号	●	×	∅	●	○	⊙	⊗

柱・梁鉄筋フック長さ (単位：m)

(1) 曲げ角180° の場合  $\left[ \begin{array}{l} \text{SD295} \\ \text{SD345} \end{array} \right. \begin{array}{l} dが16以下 \\ D \geq 3d \\ dが19 \sim 29 \\ D \geq 4d \end{array}$	呼び名に 用いた数値 d	SD295 SD345
	10	0.11
	13	0.14
	16	0.17
	19	0.23
	22	0.27
	25	0.30
29	0.35	

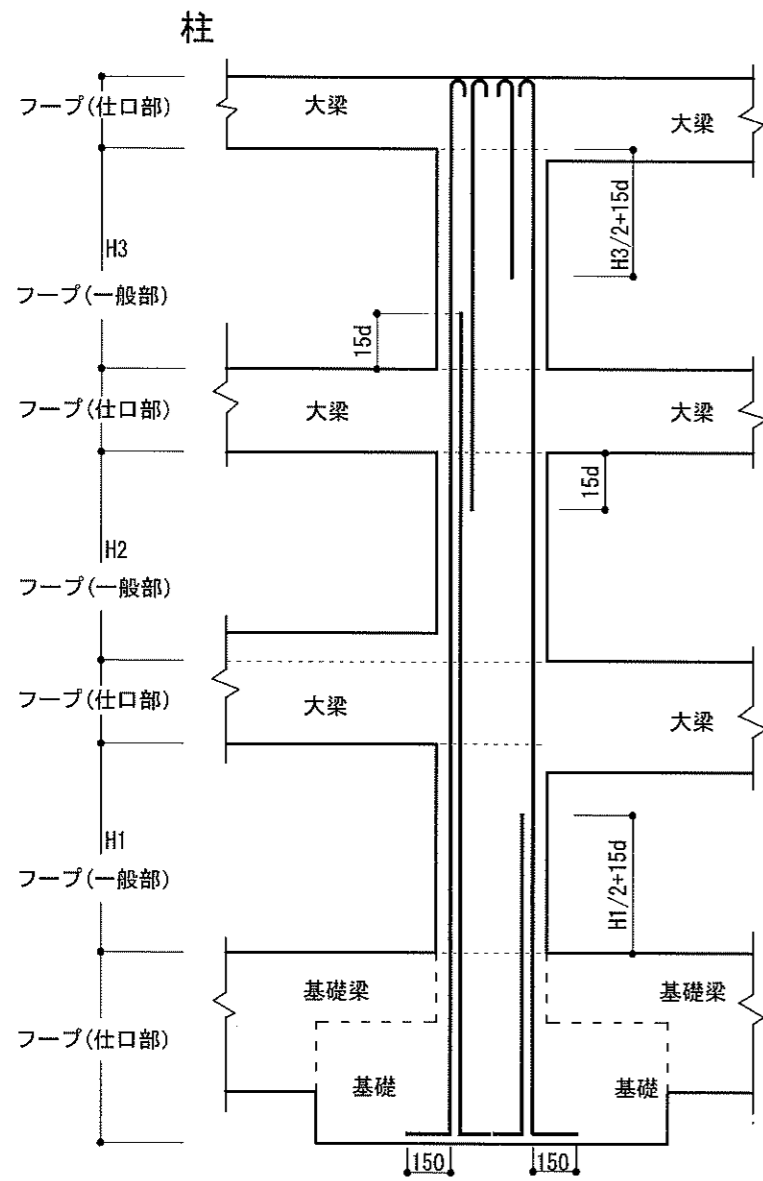
鉄筋径の倍数長さ (単位：m)

呼び名に用いた数値	10	13	16	19	22	25	29
倍数							
10d	0.10	0.13	0.16	0.19	0.22	0.25	0.29
15d	0.15	0.20	0.24	0.29	0.33	0.38	0.44
20d	0.20	0.26	0.32	0.38	0.44	0.50	0.58
25d	0.25	0.33	0.40	0.48	0.55	0.63	0.73
30d	0.30	0.39	0.48	0.57	0.66	0.75	0.87
35d	0.35	0.46	0.56	0.67	0.77	0.88	1.02
40d	0.40	0.52	0.64	0.76	0.88	1.00	1.16
45d	0.45	0.59	0.72	0.86	0.99	1.13	1.31
50d	0.50	0.65	0.80	0.95	1.10	1.25	1.45

(注) 1. dは異形鉄筋の呼び名の数値を表す。

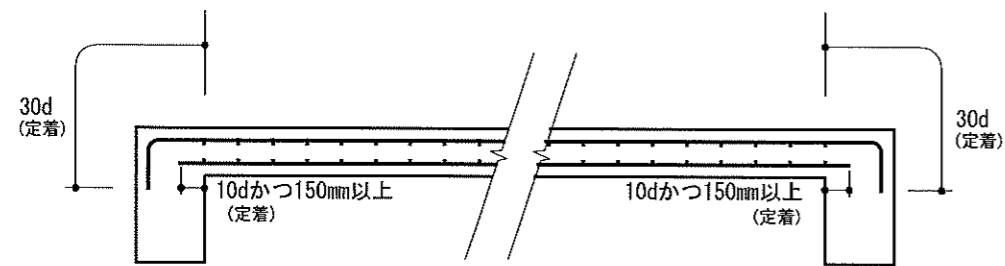
図面Ⅱ-1

共通配筋図



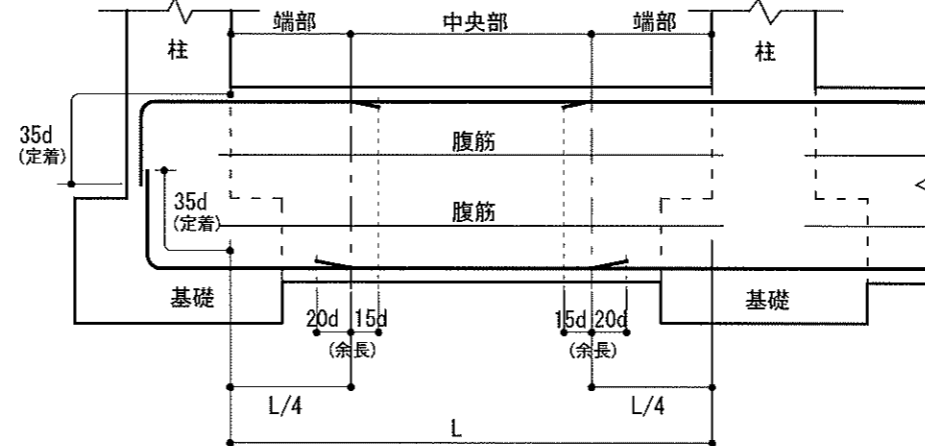
- ・最上階柱の柱頭部主筋のすべてにフックをつける。
- ・柱に取り付く梁に段差または梁高さに差がある場合、フープ(帯筋)の範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して左図による。

床板

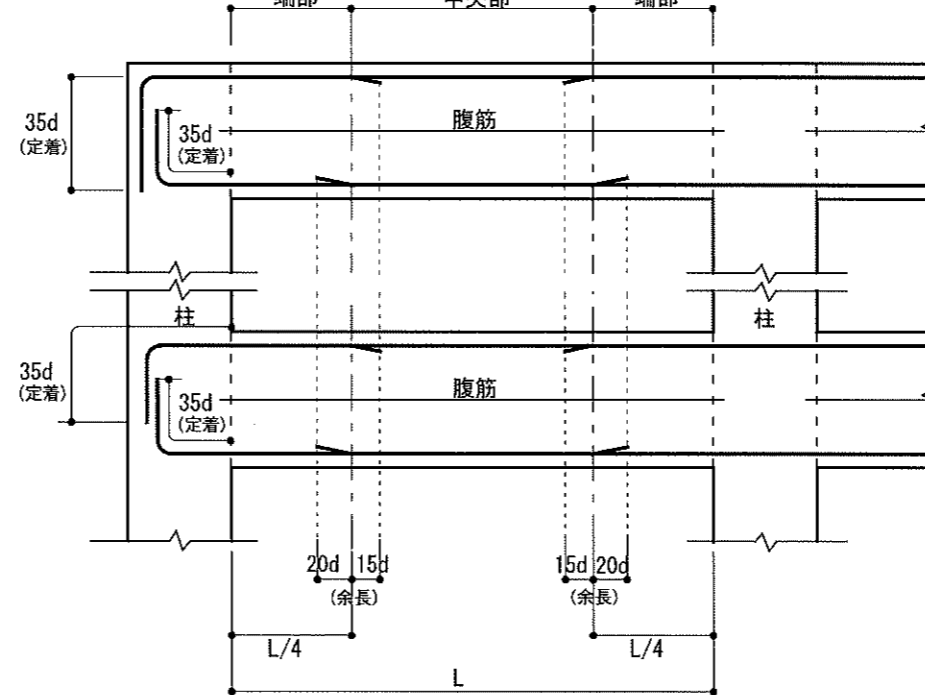


・床筋の継手長さは35dとする。

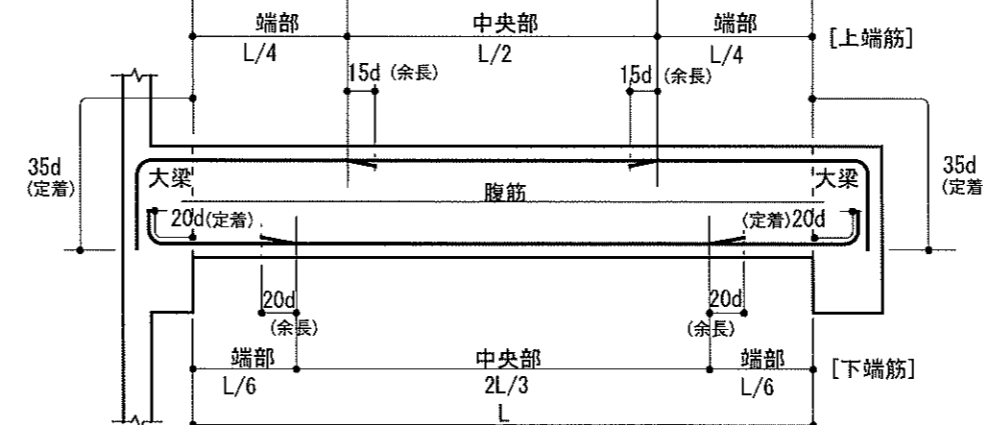
基礎梁



大梁

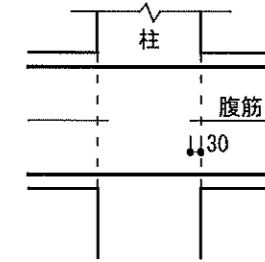


小梁



梁 腹筋

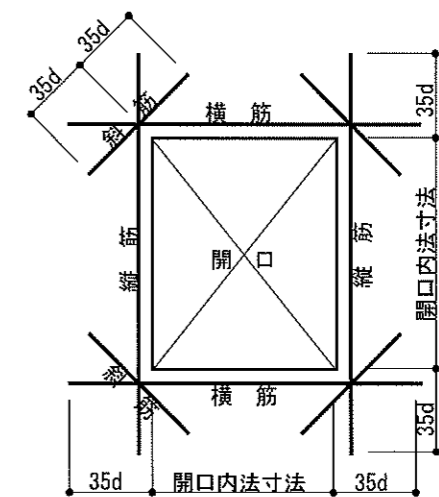
- ・腹筋の継手長さは、150mmとする。
- ・腹筋の余長は、30mmとする。



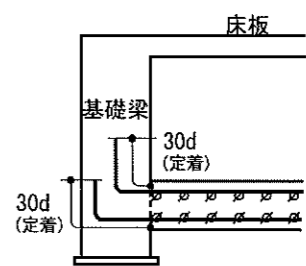
壁

- ・壁筋の定着長さは、縦・横とも30dとする。継手長さは35dとする。

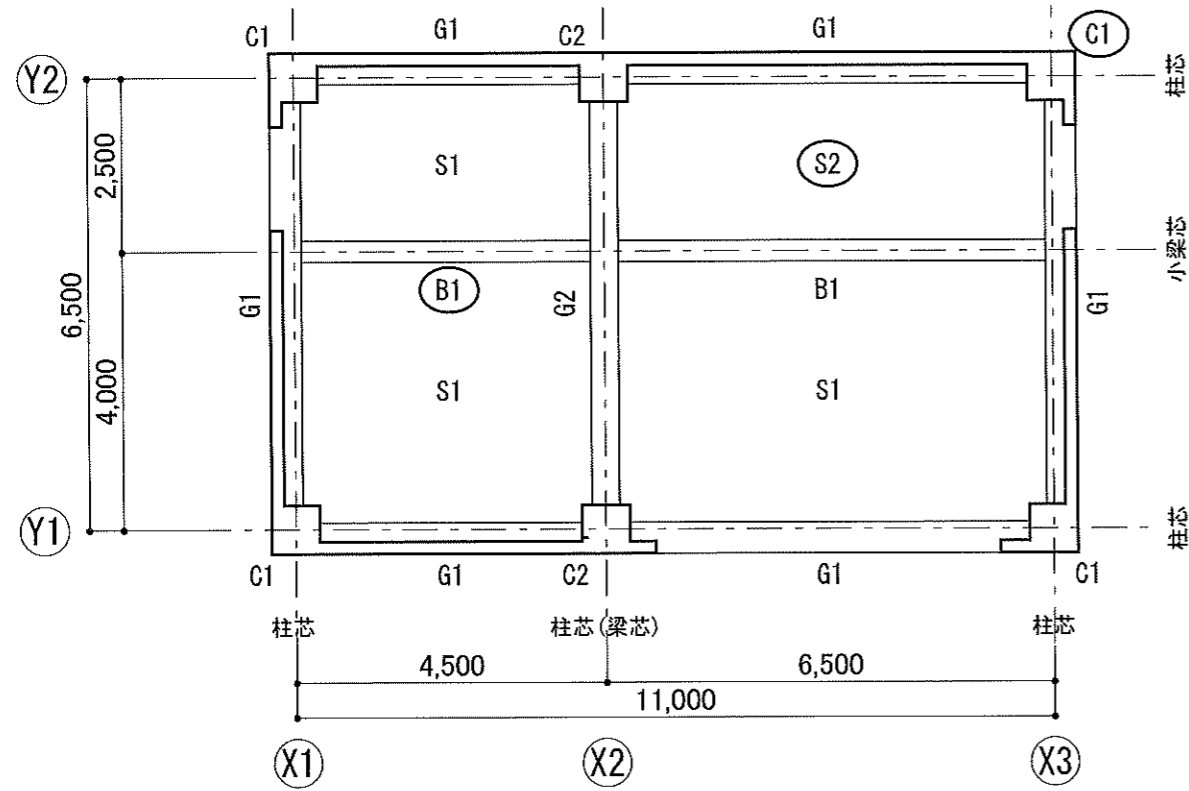
壁 開口補強



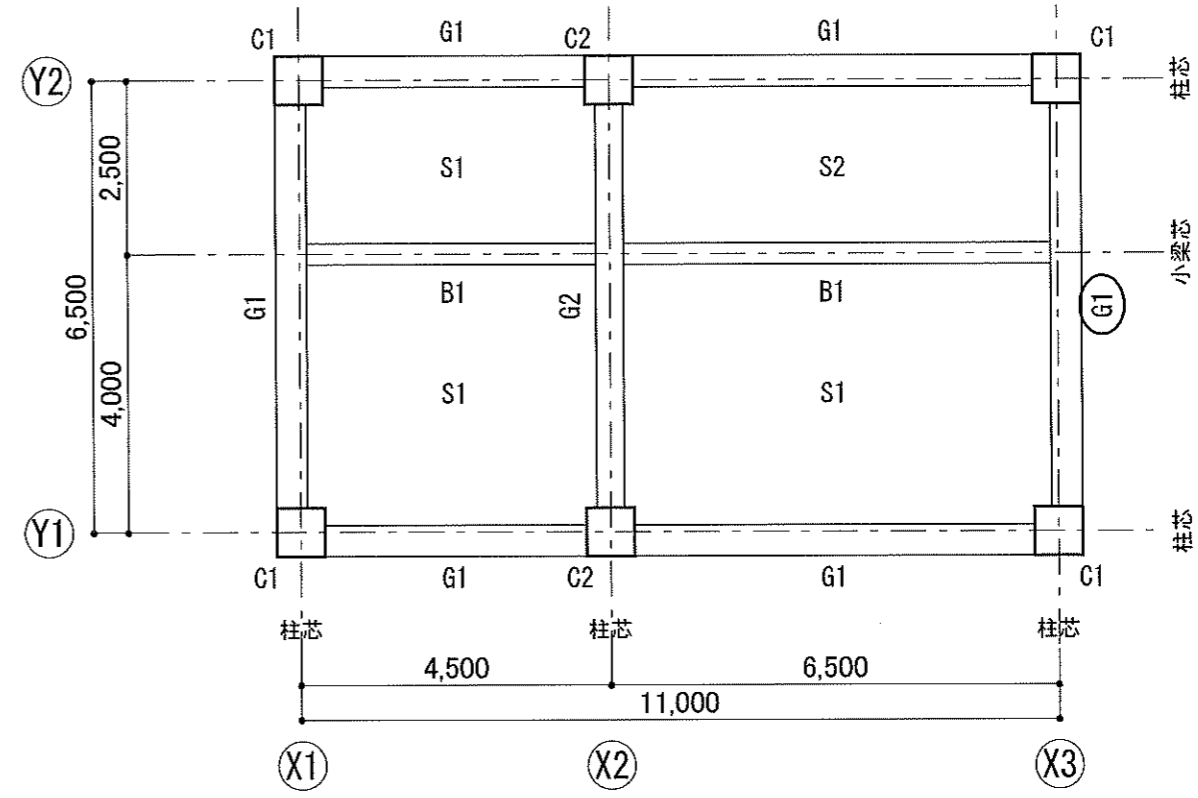
底盤



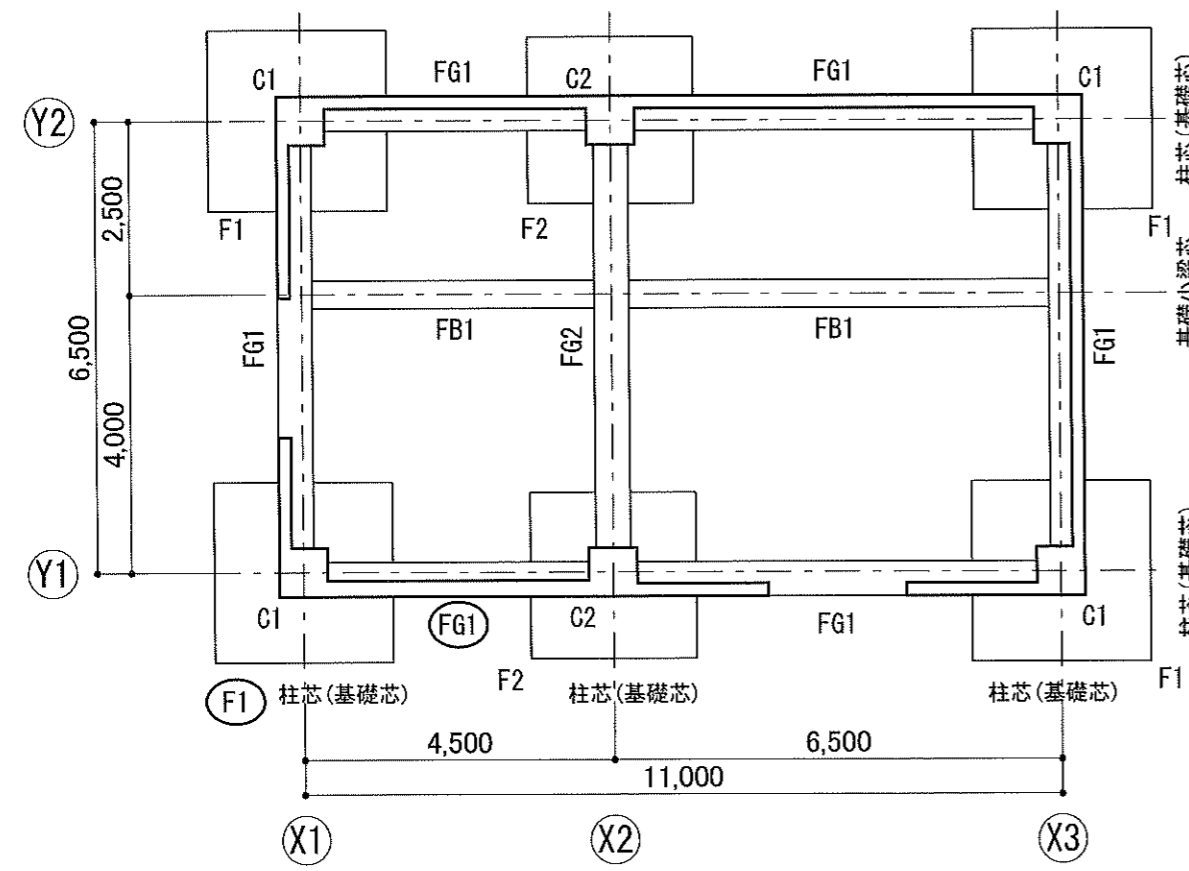
図面Ⅱ-2



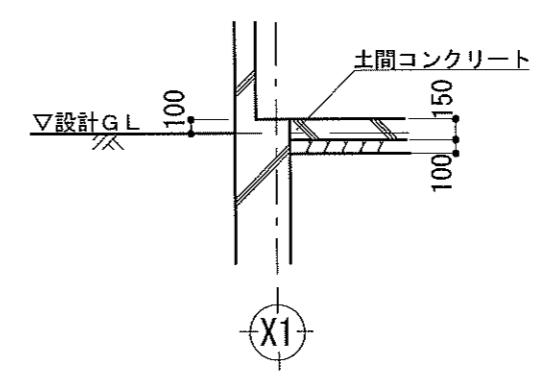
2階伏図 ・壁はW18とする



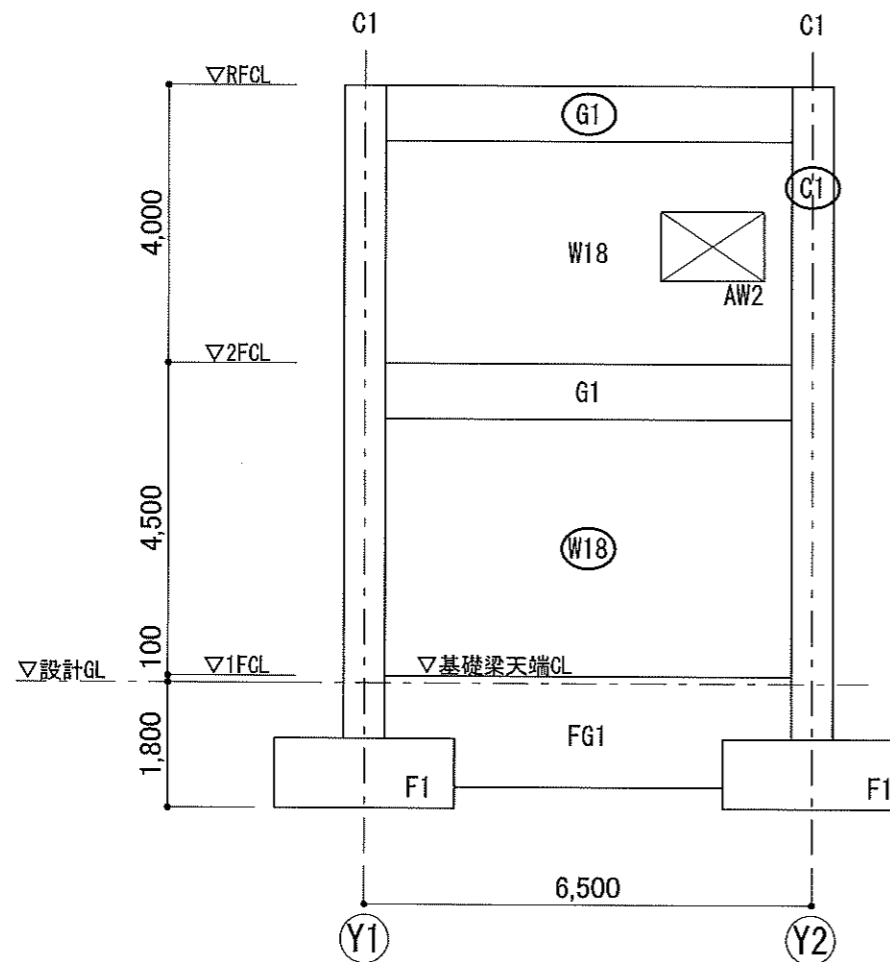
R階伏図



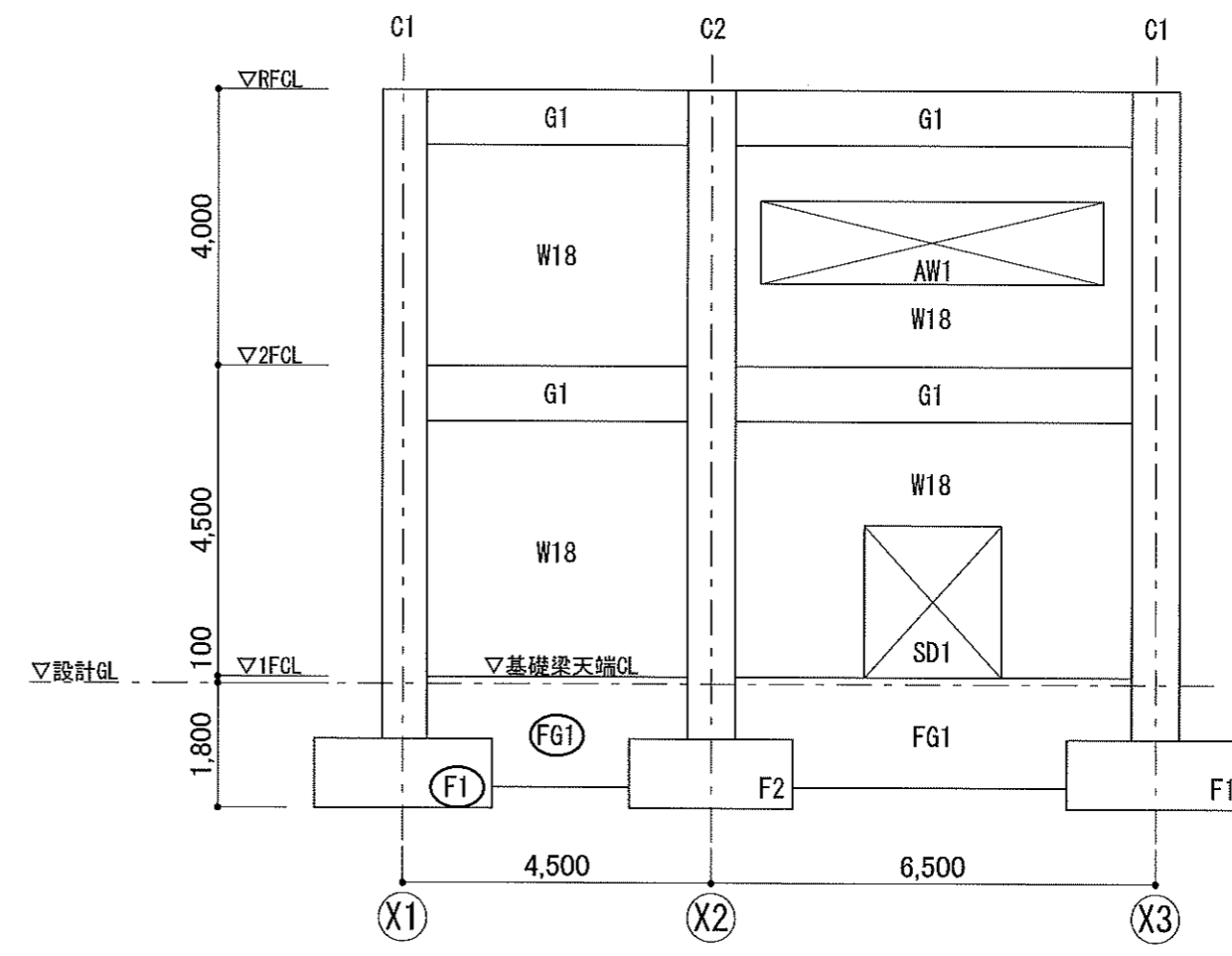
基礎伏図 ・壁はW18とする  
・基礎梁天端および1FCLは設計GL+100  
・床は土間コンクリート（あと打ち）



土間断面詳細図



ⓧ3 通軸組図



ⓧ1 通軸組図

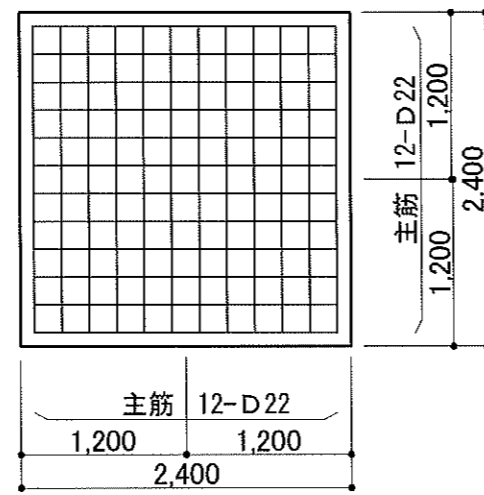
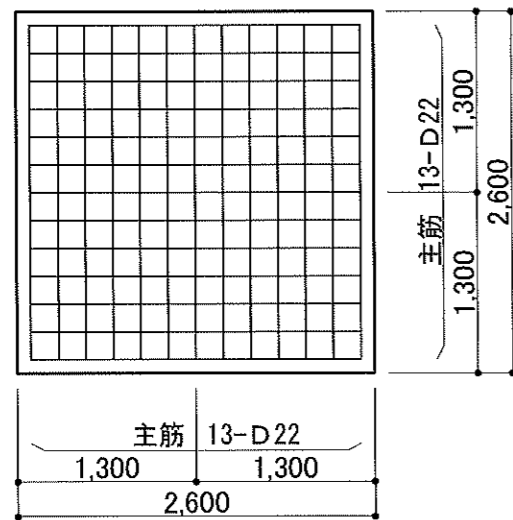
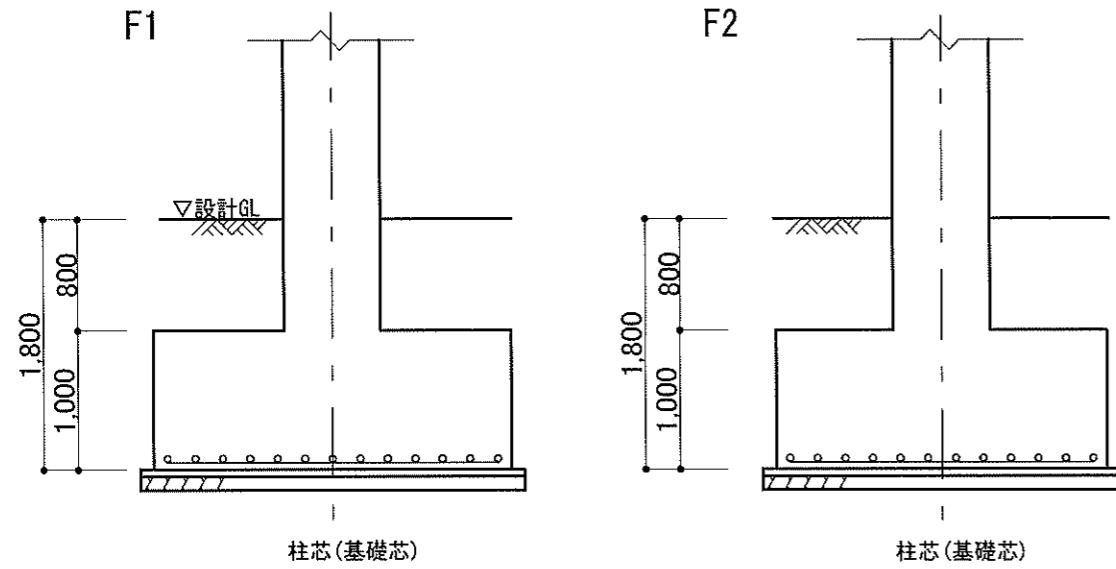
・CLは、コンクリート天端を示す

建具リスト

符号	開口部 (内法寸法)	
	W	H
AW1	5,000	1,200
AW2	1,500	1,000
SD1	2,000	2,200

図面Ⅱ-4

基礎断面リスト



- ・砂利地業は厚100
- ・捨コンクリートは厚50

基礎梁断面リスト

特記なき限り、  
幅止筋はD10@600

符号	FG1		FG2	
	端部	中央	端部	中央
位置				
断面				
B×D	500×1,600		500×1,600	
上端筋	6-D25	3-D25	6-D25	4-D25
下端筋	4-D25	6-D25	4-D25	6-D25
スタップ	D13@150		D13@150	
腹筋	6-D13		6-D13	

基礎小梁断面リスト

特記なき限り、  
幅止筋はD10@600

符号	FB1
位置	全断面
断面	
B×D	400×1,200
上端筋	4-D19
下端筋	4-D19
スタップ	D10@200
腹筋	4-D10

図面Ⅱ-5

柱断面リスト

階	符号	C1	C2
	位置	全断面	全断面
2階	断面		
	B × D	700 × 700	700 × 700
	主筋	10-D19	8-D22、4-D25
	フック(仕口)	□D13@150	□D13@150
	フック(一般)	□D13@100	□D13@100
1階	断面		
	B × D	700 × 700	700 × 700
	主筋	12-D22	8-D22、4-D25
	フック(仕口)	□D13@150	□D13@150
	フック(一般)	□D13@100	□D13@100

大梁断面リスト

特記なき限り、幅止筋はD10@600

階	符号	G1		G2	
		端部	中央	端部	中央
R階	断面				
	B × D	450 × 800		400 × 800	
	上端筋	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19
	下端筋	4-D19	5-D19	3-D19	4-D19
	スタップ	D13@200		D13@200	
	腹筋	2-D10		2-D10	
	2階	断面			
B × D		450 × 800		400 × 800	
上端筋		5-D22	5-D22	4-D22	3-D22
下端筋		5-D22	5-D22	3-D22	4-D22
スタップ		D13@200		D13@150	
腹筋		2-D13		2-D10	

小梁断面リスト

特記なき限り、幅止筋はD10@600

階	符号	B1	
	位置	端部 中央	
R階	断面		
	B × D	300 × 600	
	上端筋	3-D19 3-D19	
	下端筋	3-D19 3-D19	
	スタップ	D13@200	
	腹筋	2-D10	

壁断面リスト

特記なき限り、幅止筋はD10@1000

階	符号	W18	
	位置	断面	
R階	断面		
	壁厚	180	
	縦筋	D13@200ダブル	
	横筋	D13@200ダブル	
	開口補強	縦筋	2-D13
		横筋	2-D13
斜筋		2-D13	

床板断面リスト

符号	厚	位置	短辺方向		長辺方向	
			端部	中央	端部	中央
S1	150	上端筋	D10@150		D10@200	
		下端筋	D10@150		D10@200	
S2	150	上端筋	D13@150		D13@200	
		下端筋	D13@150		D13@200	

問題 II 解答(2025)

名称	記号	材種	サイズ	単位	設計数量
基礎	F1	鉄筋	D22	m	① 67.60
基礎梁	FG1	コンクリート		m <sup>3</sup>	② 2.41
		型枠		m <sup>2</sup>	③ 9.64
		鉄筋	D13	m	④ 136.56
			D25	m	⑤ 52.68
		圧接	D25+D25	か所	⑥ 3.50
2階柱	C1	コンクリート		m <sup>3</sup>	⑦ 1.96
		型枠		m <sup>2</sup>	⑧ 11.20
		鉄筋	D13	m	⑨ 109.20
			D19	m	⑩ 32.30
			D22	m	⑪ 10.00
R階大梁	G1	コンクリート		m <sup>3</sup>	⑫ 2.09
		型枠		m <sup>2</sup>	⑬ 9.98
		鉄筋	D13	m	⑭ 75.00
			D19	m	⑮ 66.38
2階小梁	B1	コンクリート		m <sup>3</sup>	⑯ 0.76
		型枠		m <sup>2</sup>	⑰ 5.04
		鉄筋	D19	m	⑱ 29.55
		圧接	D19+D19	か所	⑲ 3.00
1階壁	W18	コンクリート		m <sup>3</sup>	⑳ 3.86
		型枠		m <sup>2</sup>	㉑ 42.92
		鉄筋	D13	m	㉒ 578.00
2階床板	S2	コンクリート		m <sup>3</sup>	㉓ 2.09
		型枠		m <sup>2</sup>	㉔ 13.95
		鉄筋	D13	m	㉕ 427.14

く 体 積 算

( )

名 称	コ ン ク リ ー ト					型 枠				鉄 筋										圧 接	
	寸 法			か所	体 積	寸 法		か所	面 積	形 状	径	長 さ	本数	か所	D10	D13	D16	D19	D22		D25
基礎 F1	2.60	2.60	1.00	1	6.76	10.40	1.00	1	10.40	X方向主筋	D22	2.60	13	1					33.80		
									10.40 = 2.60x 4 (周囲)	Y方向主筋	D22	2.60	13	1					33.80		
					参考 6.76				参考 10.40										① 67.60		

No. \_\_\_\_\_

く 体 積 算

( )

名 称	コ ン ク リ ー ト					型 枠				鉄 筋									圧 接					
	寸 法			か所	体 積	寸 法		か所	面 積	形 状	径	長 さ	本数	か所	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D25+D25			
基礎梁 FG1	0.50	1.60	3.80	1	3.04	3.20	3.80	1	12.16	上端通し筋	D25	5.03	3	1						15.09	1.50			
基礎梁の長さは柱内法長さ $3.80 = 4.50 - 0.35 - 0.35$ 柱半幅 柱半幅					$3.20 = 1.60 \times 2$ (両面)				$5.03 = 3.80 + 0.88 + 0.35$ 梁長 定着 柱半幅			連続梁の全長にわたる鉄筋で $0.5 \times 3 = 1.50$ 梁長さが5m未満の為0.5か所の継手を計上												
										下端通し筋	D25	5.03	4	1						20.12	2.00			
F1取合	0.50	0.70	0.95	▲ 1	▲ 0.33	0.70	0.95	▲ 2	▲ 1.33				$5.03 = 3.80 + 0.88 + 0.35$ 梁長 定着 柱半幅			連続梁の全長にわたる鉄筋で $0.5 \times 4 = 2.00$ 梁長さが5m未満の為0.5か所の継手を計上								
$0.70 = 1.60 - 0.90$ 梁成 梁天端~基礎					$0.95 = 1.30 - 0.35$ 基礎半幅 柱半幅																			
										左端部上端筋	D25	2.21	3	1						6.63				
F2取合	0.50	0.70	0.85	▲ 1	▲ 0.30	0.70	0.85	▲ 2	▲ 1.19				$2.21 = 0.95 + 0.88 + 0.38$ 梁長/4 定着 余長											
$0.70 = 1.60 - 0.90$ 梁成 梁天端~基礎					$0.85 = 1.20 - 0.35$ 基礎半幅 柱半幅																			
										右端部上端筋	D25	1.68	3	1						5.04				
												$1.68 = 0.95 + 0.38 + 0.35$ 梁長/4 余長 左柱半幅												
										中央下端筋	D25	2.90	2	1						5.80				
												$2.90 = 1.90 + 0.50 + 0.50$ 梁長/2 余長 余長												
										腹筋	D13	3.86	6	1		23.16								
												$3.86 = 3.80 + 0.03 \times 2$ 梁長 余長 x2												

No. \_\_\_\_\_



く 体 積 算

( )

名 称	コ ン ク リ ー ト					型 枠				鉄 筋									圧 接			
	寸 法			か所	体 積	寸 法		か所	面 積	形 状	径	長 さ	本数	か所	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D22+D19	
柱 2C1	0.70	0.70	4.00	1	1.96	2.80	4.00	1	11.20	主筋	D22	1.00	10	1					10.00		10.00	
	階高					2.80 = 0.70 x 4 (周長)						径の異なる主筋を連続させる場合は 異形継手位置(+1.00m)まで下階の鉄筋径とする										
										主筋	D19	3.23	10	1				32.30				
													3.23 = 4.00 - 1.00 + 0.23 階高 下部1m 最上階フック									
																		階の全長にわたる鉄筋は各階ごとに 1か所の継手を計上				
										フープ筋	D13	2.80	39	1		109.20						
													割付け範囲 一般部 4.00 - 0.80 = 3.20 階高 梁成 仕口部 0.80 梁成  割付け本数 一般部 3.20 ÷ 0.10 = 32 → 32 仕口部 0.80 ÷ 0.15 = 5.3... → 6 合 計 32 + 6 = 38 38 + 1 = 39本									
													2.80 = 0.70 x 4 (周長)									
					⑦ 1.96				⑧ 11.20						⑨ 109.20			⑩ 32.30	⑪ 10.00		参考 10.00	

No. \_\_\_\_\_

く 体 積 算

( )

名 称	コ ン ク リ ー ト					型 枠				鉄 筋									圧 接		
	寸 法			か所	体 積	寸 法		か所	面 積	形 状	径	長 さ	本数	か所	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D19+D19
大梁 RG1	0.45	0.80	5.80	1	2.09	1.90	5.80	1	11.02	上端通し筋	D19	8.54	4	1				34.16			4.00
梁長さは柱内法長さ $5.80 = 6.50 - 0.35 - 0.35$ 柱半幅 柱半幅					$1.90 = 0.80 \times 2 + 0.45 - 0.15$ 梁成 梁底 スラブ厚				$8.54 = 5.80 + 0.70 \times 2 + 0.67 \times 2$ 梁長 柱幅x2 定着x2			単独梁において、径16mm以上の鉄筋長さが7.00m毎に継手が必要 1か所の継手を計上									
						0.18	5.80	▲ 1	▲ 1.04	下端通し筋	D19	7.14	4	1				28.56			4.00
					$7.14 = 5.80 + 0.67 + 0.67$ 梁長 定着 定着				単独梁において、径16mm以上の鉄筋長さが7.00m毎に継手が必要 1か所の継手を計上												
					大梁一壁の取合 小口の面積が1.00㎡を超える為、減分																
										中央下端筋	D19	3.66	1	1				3.66			
					$3.66 = 2.90 + 0.38 \times 2$ 梁長/2 余長x2																
										腹筋	D10	5.86	2	1	11.72						
					$5.86 = 5.80 + 0.03 \times 2$ 梁長 + 余長x2																
										スタラップ	D13	2.50	30	1		75.00					
					$2.50 = (0.45 + 0.80) \times 2$ 梁幅 梁成							$割付け本数 = 5.80 \div 0.20 = 29$ $29 + 1 = 30本$									

No. \_\_\_\_\_



く 体 積 算

( )

名 称	コンクリート					型 枠				鉄 筋								圧 接 D19+D19				
	寸 法			か所	体 積	寸 法		か所	面 積	形 状	径	長 さ	本数	か所	D10	D13	D16		D19	D22	D25	
小梁 2B1	0.30	0.60	4.20	1	0.76	1.20	4.20	1	5.04	上端通し筋	D19	5.07	3	1				15.21				
梁長さは大梁内法長さ $4.20 = 4.50 + 0.35 - 0.45 - 0.20$ スパン 柱半幅 梁幅 梁半幅					$1.20 = 0.60 \times 2 + 0.30 - 0.15 \times 2$ 梁成 梁底 スラブ両側				$5.07 = 4.20 + 0.67 + 0.20$ 梁長 定着 右大梁/2				連続梁の全長にわたる鉄筋で $0.5 \times 3 = 1.50$ 梁長さが5m未満の為0.5か所の継手を計上				1.50					
										下端通し筋	D19	4.78	3	1				14.34				
													$4.78 = 4.20 + 0.38 + 0.20$ 梁長 定着(20d) 右大梁/2				連続梁の全長にわたる鉄筋で $0.5 \times 3 = 1.50$ 梁長さが5m未満の為0.5か所の継手を計上				1.50	
										腹筋	D10	4.56	2	1	9.12							
													$4.56 = 4.50 + 0.03 \times 2$ 梁長 + 余長x2									
										スタラップ°	D13	1.80	22	1	39.60							
													割付け本数 = $4.20 \div 0.20 = 21$ $21 + 1 = 22$ 本									
													$1.80 = (0.30 + 0.60) \times 2$ 梁幅 梁成									

No. \_\_\_\_\_



く 体 積 算

( )

名 称	コ ン ク リ ー ト					型 枠				鉄 筋									圧 接			
	寸 法			か所	体 積	寸 法		か所	面 積	形 状	径	長 さ	本数	か所	D10	D13	D16	D19		D22	D25	
壁 1W18	5.80	3.70	0.18	1	3.86	5.80	3.70	2	42.92	縦筋	D13	4.94	60	1		296.40						
			壁高さは梁内法長さ 3.70 = 4.50 - 0.80 階高 梁成											割付け本数 = 5.80 ÷ 0.20 = 29 → 29 29 + 1 = 30本 ダブル配筋の為 30x2=60本								
														4.94 = 3.70 + 0.39 x 2 + 0.46 壁高さ 定着 x 2 継手			縦筋の継手は 各階に1か所計上					
			壁長さは柱内法長さ 5.80 = 6.50 - 0.35 - 0.35 スパン 柱半幅 柱半幅							横筋	D13	7.04	40	1		281.60						
														割付け本数 = 3.70 ÷ 0.20 = 18.5 → 19 19 + 1 = 20本 ダブル配筋の為 20x2=40本								
														7.04 = 5.80 + 0.39 x 2 + 0.46 壁長さ 定着 x 2 継手			径13mm以下の鉄筋の継手は 6.0mごとに1か所計上					

No. \_\_\_\_\_



く 体 積 算

( )

名 称	コ ン ク リ ー ト					型 枠				鉄 筋									圧 接		
	寸 法			か所	体 積	寸 法		か所	面 積	形 状	径	長 さ	本数	か所	D10	D13	D16	D19		D22	D25
床板 2S2	2.25	6.20	0.15	1	2.09	2.25	6.20	1	13.95	短辺上端筋	D13	3.03	43	1		130.29					
			長辺長さは梁内法長さ $6.20 = 6.50 - 0.20 + 0.35 - 0.45$ スパン 梁半幅 柱半幅 梁幅											割付け本数 = $6.20 \div 0.15 = 41.3 \dots \rightarrow 42$ $42 + 1 = 43$ 本							
														$3.03 = 2.25 + 0.39 \times 2$ 床板長 定着							
			短辺長さは梁内法長さ $2.25 = 2.50 - 0.15 + 0.35 - 0.45$ スパン 小梁半幅 柱半幅 梁幅							短辺下端筋	D13	2.55	43	1		109.65					
														割付け本数 = $6.20 \div 0.15 = 41.3 \dots \rightarrow 42$ $42 + 1 = 43$ 本							
														$2.55 = 2.25 + 0.15 \times 2$ 床板長 定着							
										長辺上端筋	D13	7.44	13	1		96.72					
														割付け本数 = $2.25 \div 0.20 = 11.25 \rightarrow 12$ $12 + 1 = 13$ 本							
														$7.44 = 6.20 + 0.39 \times 2 + 0.46$ 床板長 定着x2 継手					径13mm以下の鉄筋の継手は 6.0mごとに1か所計上		
										長辺下端筋	D13	6.96	13	1		90.48					
														割付け本数 = $2.25 \div 0.20 = 11.25 \rightarrow 12$ $12 + 1 = 13$ 本							
														$6.96 = 6.20 + 0.15 \times 2 + 0.46$ 床板長 定着x2 継手					径13mm以下の鉄筋の継手は 6.0mごとに1か所計上		
					⑳				㉑							㉒					
					2.09				13.95							427.14					

No. \_\_\_\_\_

2025年度 建築積算士試験 【二次試験】

問題Ⅲ 図面Ⅲ-1からⅢ-4までについて、下記の部分の設計数量を「新☆建築積算士ガイドブック」および「建築数量積算基準」に従って計測・計算し、解答用紙の所定の欄に記入しなさい。

解答は、小数点以下第3位を四捨五入して、小数点以下第2位までを記入しなさい。

1. 内部仕上：事務室、給湯室、更衣室、備品庫の仕上のうち、解答欄に示す①～⑯までの仕上数量。
2. 開口部：平面図に記載の建具（SSD、AW、SD、SSF）の全数のうち、解答欄に示す⑳～㉔までの数量。
3. 間仕切：軽量鉄骨間仕切下地（LGS）のうち、解答欄に示す㉕の数量。

内部特記事項

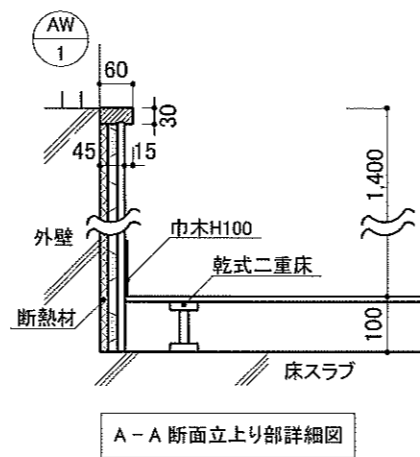
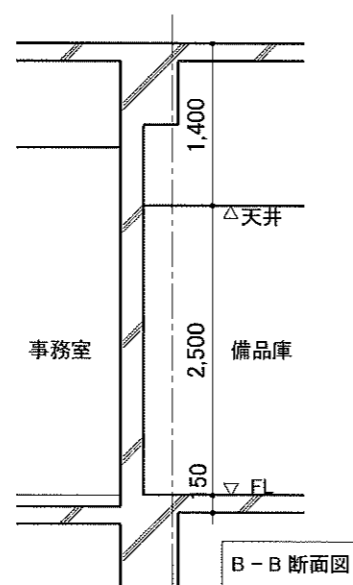
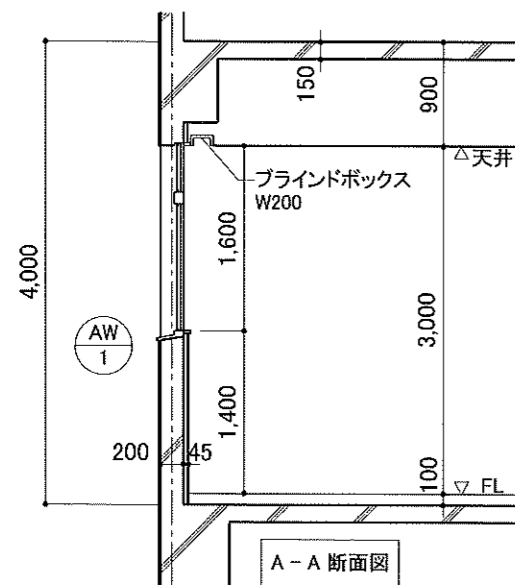
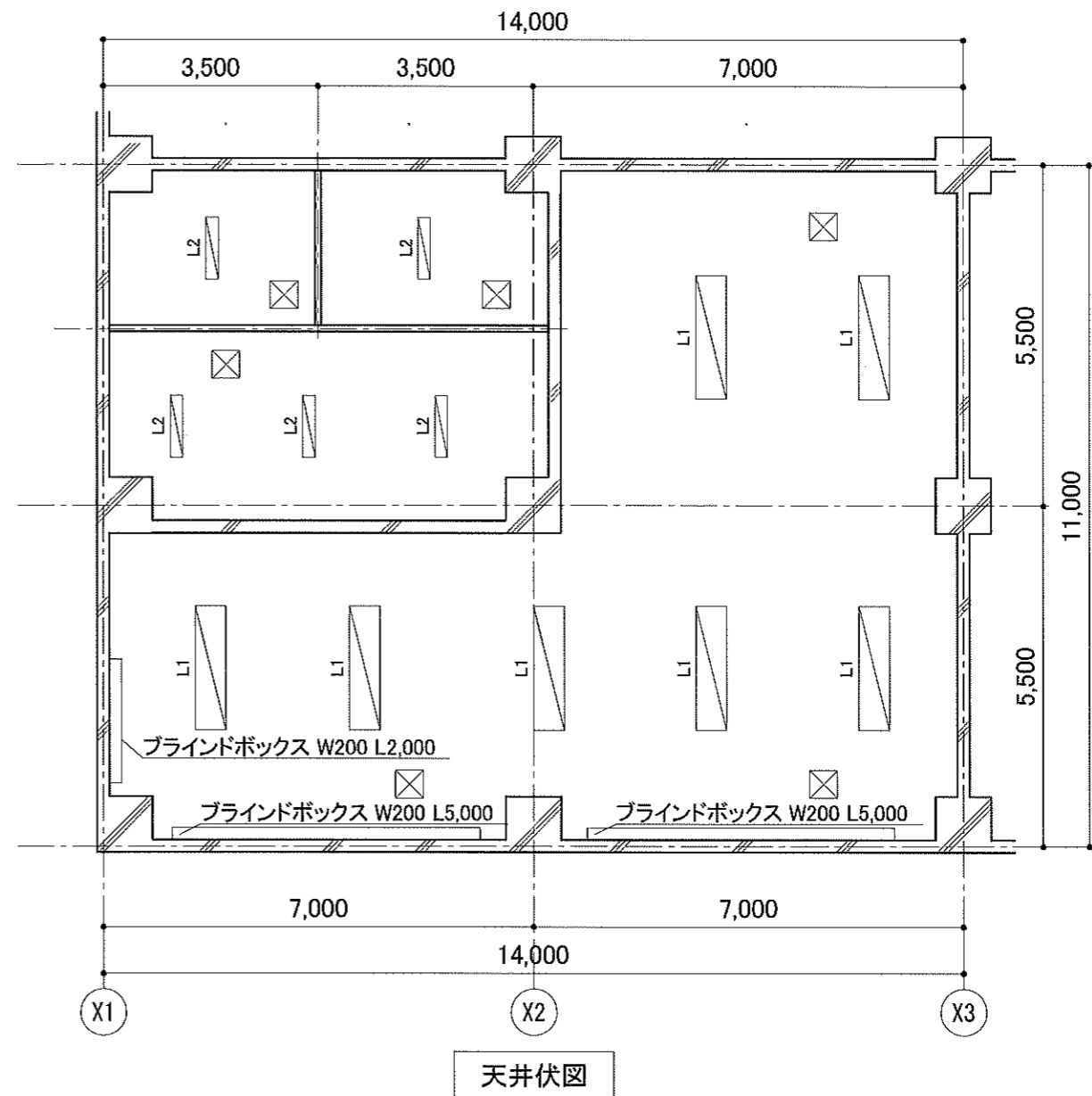
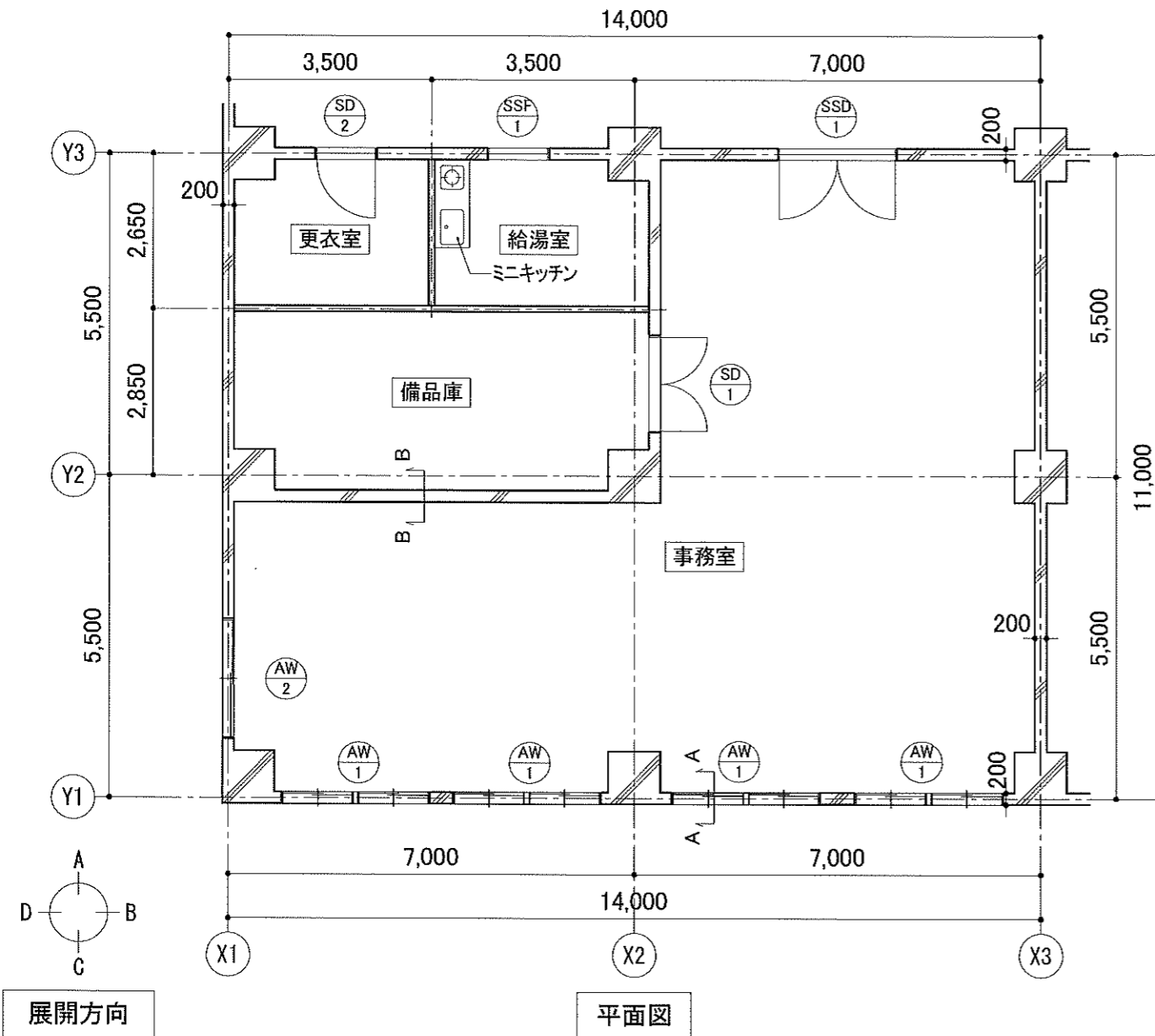
1. 構造は、鉄筋コンクリート造とする。
2. 通り芯は、躯体および準躯体の柱芯、壁芯とする。
3. 外壁面（X1通り・Y1通り）の内部側に、柱型、梁型を除いて断熱材t20吹付けとし、RC内壁への断熱材の折返しはないものとする。
4. 内部間仕切は、軽量鉄骨間仕切下地（LGS）100形とし、スラブからスラブ間の設置とする。仕上は天井下までとする。
5. 開口部においてSSD、SSFはステンレス製建具、SDは鋼製建具、AWはアルミ製建具、WDは木製建具とする。  
建具面の塗装は建具表の塗装係数を用いる。
6. 給湯室のミニキッチン、接する床・幅木・壁の表面仕上（ビニル床シート・ビニル幅木・ビニルクロス）の施工前に設置するものとする。
7. 壁には、柱型は含まない。
8. ブラインドボックスは、W200×D100とし、取合部に廻縁は不要とする。
9. ガラスシーリングは片面周長×2倍の両面周長とする。

内部仕上表

床下地の（ ）の数値はスラブ天端を表す。

部位 部屋名	床		幅木		壁・柱		天井		廻縁	天井高	備考
	仕上	下地	仕上	下地	仕上	下地	仕上	下地			
事務室	タイルカーペット t6 乾式二重床 H100	RC (FL-100)	ビニル幅木 H100	壁に同じ	ビニルクロス	断熱材面：石こうボード t12.5 GL コンクリート面：コンクリート打放	岩綿吸音板 t9	石こうボード t9.5 LGS	塩ビ	3,000	ブラインドボックス（埋込型） アルミ製 W200 天井点検口
給湯室	ビニル床シート t2.5 コンクリート金ゴテ押え	RC (FL±0)	ビニル幅木 H50	壁に同じ	ビニルクロス	コンクリート面：コンクリート打放 LGS間仕切り面：石こうボード t12.5	EP塗	石こうボード t12.5 LGS	塩ビ	2,500	ミニキッチン L1,500×D600×H2,000 天井点検口
更衣室	ビニル床シート t2.5 コンクリート金ゴテ押え	RC (FL±0)	ビニル幅木 H100	壁に同じ	ビニルクロス	断熱材面：石こうボード t12.5 GL コンクリート面：コンクリート打放 LGS間仕切り面：石こうボード t12.5	EP塗	石こうボード t12.5 LGS	塩ビ	2,500	天井点検口
備品庫	ビニル床シート t2.5 コンクリート金ゴテ押え	RC (FL±0)	ビニル幅木 H100	壁に同じ	EP塗	断熱材面：石こうボード t12.5 GL コンクリート面：コンクリート打放 LGS間仕切り面：石こうボード t12.5	EP塗	石こうボード t12.5 LGS	塩ビ	2,500	天井点検口

図面Ⅲ-1



躯体・準躯体リスト

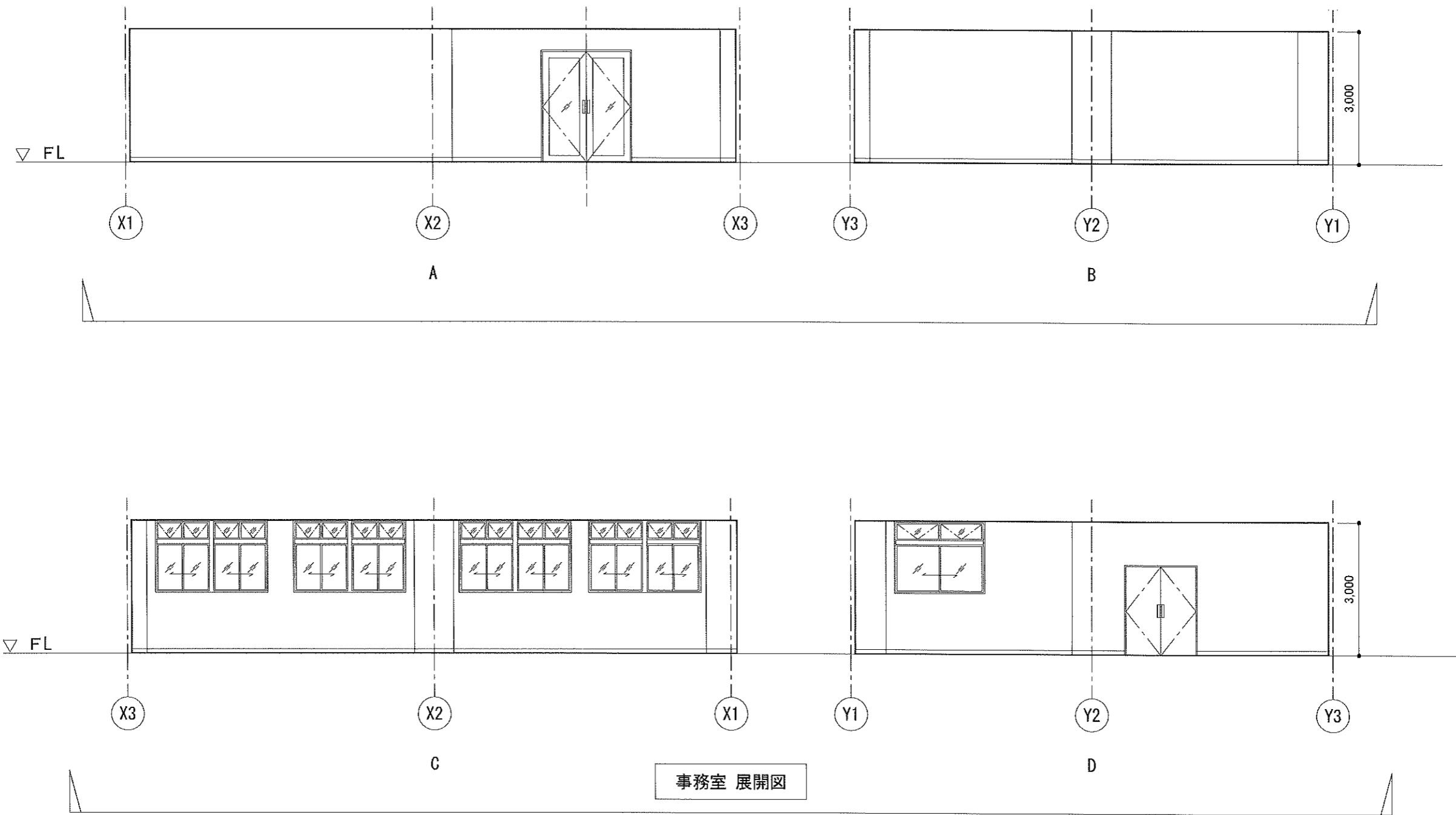
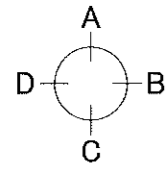
部位(部材)	寸法	記号
柱(RC)	900×900	
梁(RC)	W500×H700	
内外壁(RC)	厚 200	
天井スラブ(RC)	厚 150	
間仕切下地(LGS)	100形	

天井開口部リスト

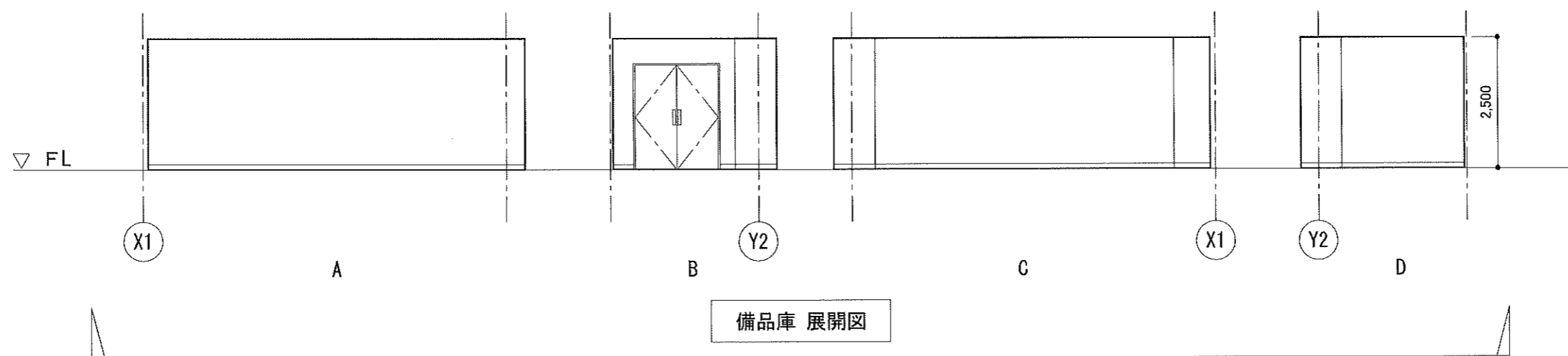
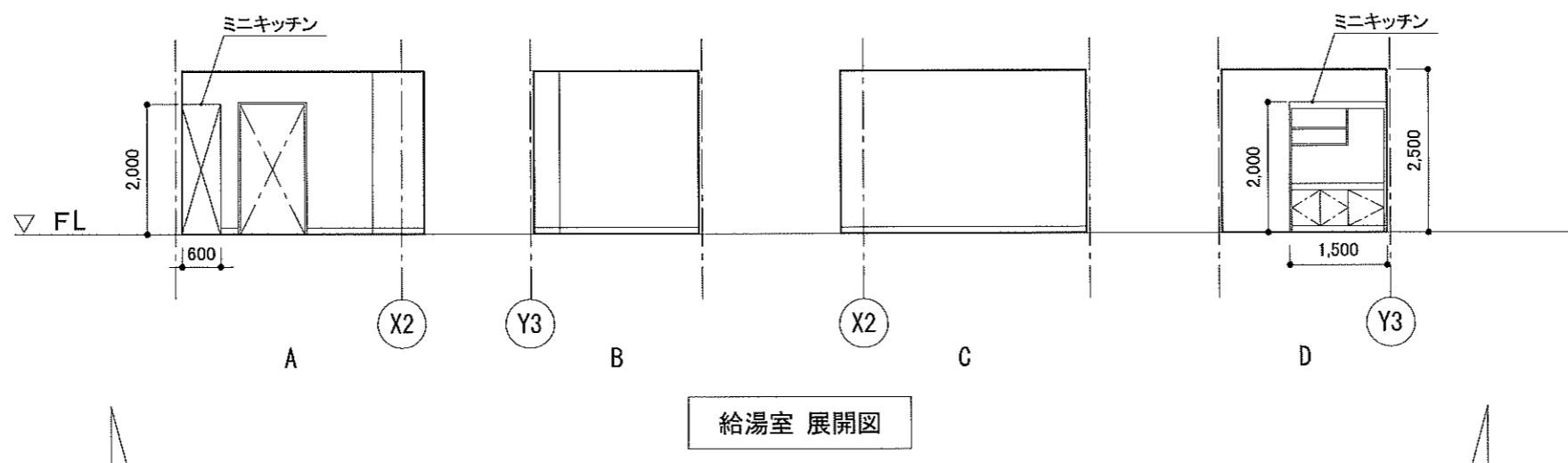
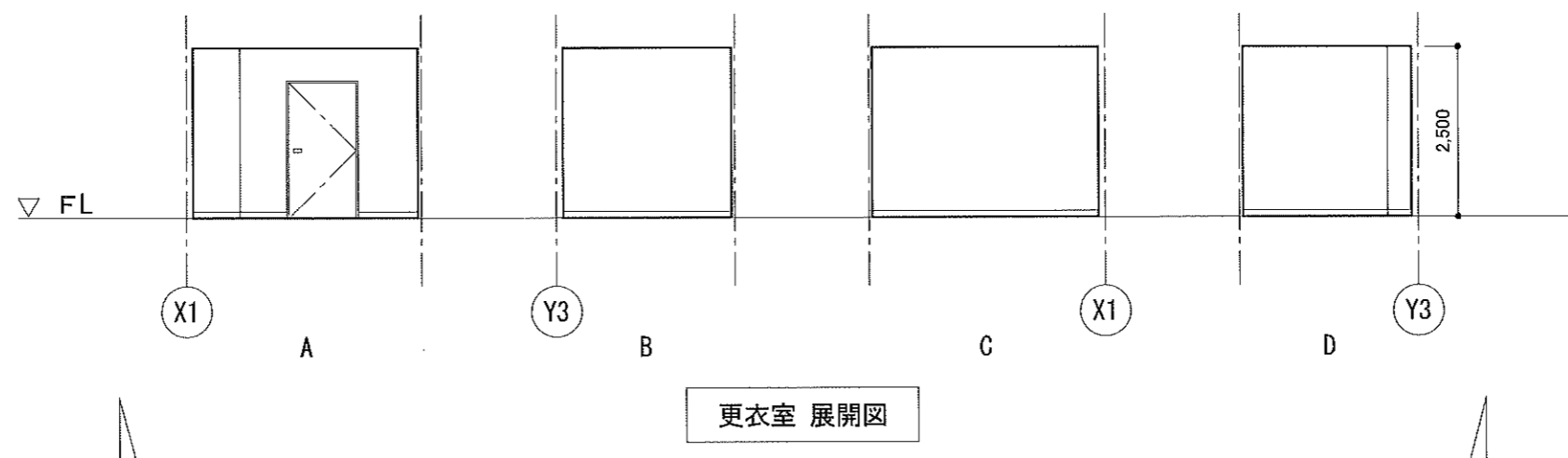
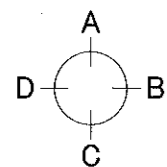
記号	寸法
L1	500×2,000
L2	200×1,000
	450×450

注: 天井開口部リストに示されている器具等は埋込型である。

図面Ⅲ-2



図面Ⅲ-3



建具リスト

記号・建具名	SSD 1 両開ガラス框戸(内部)	AW 1 排煙窓付二連引違窓(外部)	AW 2 引違窓(排煙窓付)・(外部)
姿 図	<p>沓摺ステンレス</p>		
材質・枠見込	ステンレス製・200	アルミ製・100	アルミ製・100
ガラス	強化ガラス t10	フロートガラス t10	網入磨き板ガラス t6.8
塗装(係数)	—	—	—

記号・建具名	SD 1 両開戸(内部)	SD 2 片開き戸	SSF 1 開口三方枠(内部)
姿 図	<p>沓摺ステンレス</p>	<p>沓摺ステンレス</p>	<p>沓摺ステンレス</p>
材質・枠見込	スチール製・145	スチール製・145	ステンレス製・145
ガラス	—	—	—
塗装(係数)	SOP (2.6)	SOP (2.9)	—

問題 III

場所・部屋・部位		仕 上 [下地]	単位	設計数量
内 部 仕 上	事務室	床	タイルカーペット t6、乾式二重床H100	m <sup>2</sup> ① 105.41
		幅木	ビニル幅木 H100 [石こうボード t12.5 GL工法]	m ② 16.10
		幅木	ビニル幅木 H100 [コンクリート打放]	m ③ 24.55
		柱幅木	ビニル幅木 H100 [コンクリート打放]	m ④ 7.05
		壁	ビニルクロス [石こうボード t12.5 GL工法]	m <sup>2</sup> ⑤ 27.49
		壁	ビニルクロス [コンクリート打放]	m <sup>2</sup> ⑥ 73.79
		柱	ビニルクロス [コンクリート打放]	m <sup>2</sup> ⑦ 20.44
		天井	岩綿吸音板 t9 [石こうボード t9.5、LGS]	m <sup>2</sup> ⑧ 96.41
		廻縁	塩ビ	m ⑨ 39.30
		雑	ブラインドボックス W200×D100	m ⑩ 12.00
	給湯室	床	ビニル床シート t2.5 [コンクリート金ゴテ押え]	m <sup>2</sup> ⑪ 8.35
		壁	ビニルクロス [石こうボード t12.5 LGS面]	m <sup>2</sup> ⑫ 12.50
		天井	EP塗 [石こうボード t12.5、LGS]	m <sup>2</sup> ⑬ 9.25
	更衣室	壁	ビニルクロス [石こうボード t12.5 LGS面]	m <sup>2</sup> ⑭ 14.04
		天井	EP塗 [石こうボード t12.5、LGS]	m <sup>2</sup> ⑮ 8.38
	備品庫	床	ビニル床シート t2.5 [コンクリート金ゴテ押え]	m <sup>2</sup> ⑯ 21.81
		壁	EP塗 [石こうボード t12.5 LGS面]	m <sup>2</sup> ⑰ 17.16
		壁	EP塗 [石こうボード t12.5 GL工法]	m <sup>2</sup> ⑱ 5.64
		柱	EP塗 [コンクリート打放]	m <sup>2</sup> ⑲ 6.72
開口部	外部 (AW) 建具周囲モルタル充填 (防水材入り)	m ⑳ 40.00		
	網入り磨き板ガラス t6.8	m <sup>2</sup> ㉑ 3.20		
	フロートガラス t10	m <sup>2</sup> ㉒ 16.00		
	アルミ製建具用ガラスシーリング (片面周長×2)	m ㉓ 211.20		
	SOP (合成樹脂調合ペイント) 鋼製建具面	m <sup>2</sup> ㉔ 14.12		
間仕切	LGS 100形	m <sup>2</sup> ㉕ 36.19		

事務室

仕 上 積 算

(公社)日本建築積算協会14号用紙

( )

床			壁			天 井			そ の 他
仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	
回答例①			回答例②			回答例⑧			
タイルカーペットt6 乾式二重床H100			断熱材面 ビニル幅木H100 石膏ボードt12.5 GL工法			岩綿吸音板t9 石こうボードt9、LGS			
全体	149.04 13.80 × 10.8	149.04		4.25 5.50 - 0.45 - 0.80	4.25	床面積		105.41	
切欠き部	42.9975 △7.35 × 5.85	△43.00		5.75 7.00 - 0.80 - 0.45	5.75	照明器具 L1	7 △0.50 × 2.00 × 7	△7.00	
106.04	106.0425 事務室 計	106.04		6.1 7.00 - 0.45 - 0.45	6.10	天井点検口	0.6075 △0.45 × 0.45 × 3		
柱 X1-Y1	0.49 △0.70 × 0.70			16.1 ②	16.10	ブラインドボックス	△0.20 × 5.00 × 2	△2.00	
柱 X2-Y1	0.63 △0.90 × 0.70	△0.63	回答例③		(m)	ブラインドボックス	△0.20 × 2.00		
柱 X3-Y1	0.28 △0.35 × 0.90		RC面 ビニル幅木H100 コンクリート打ち放し				96.41 ⑧	96.41	
柱 X3-Y2	0.315 △0.35 × 0.90			7.35 7.00 - 0.10 + 0.45	7.35	回答例⑨		(m2)	
柱 X3-Y3	0.1225 △0.35 × 0.35			4.25 5.50 - 0.10 + 0.45 - 1.60	4.25	廻縁 塩ビ			
	0.63 柱型 計	△0.63		4.1 7.00 - 0.45 - 0.45 - 2.00	4.10		47.7 16.10 + 24.55 + 7.05	47.70	
	105.41 ①	105.41		4.6 5.50 - 0.45 - 0.45	4.60	SD1		1.60	
		(m2)		4.25 5.50 - 0.45 - 0.80	4.25	SSD1		2.00	
全体寸法				24.55 ③	24.55	ブラインドボックス	△5.00 × 2 + 2.00	△12.00	
X方向	14.00-0.10-0.10=13.80				(m)		39.30 ⑨	39.30	
Y方向	11.00-0.10-0.10=10.80							(m)	
切欠き部寸法						回答例⑩			
X方向	7.00-0.10+0.45=7.35					ブラインドボックス			
Y方向	5.50-0.10+0.45=5.85						⑩	12.00	
								(m)	

床			壁			天 井			そ の 他
仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	
			回答例④						
			柱型面	ビニル幅木H100 コンクリート打ち放し					
			X1-Y1	0.70 + 0.70	1.4				
					1.40				
			X2-Y2	0.90 + 0.70 × 2	2.3				
					2.30				
			X3-Y1	0.35 + 0.70	1.05				
					1.05				
			X3-Y2	0.35 × 2 + 0.90	1.6				
					1.60				
			X3-Y3	0.35 + 0.35	0.7				
					0.70				
					7.05				
					④				
					7.05				
			回答例⑤						
			断熱材面	ビニルクロス 石膏ボードt12.5 GL工法					
			断熱材面	16.10 × 3.00	48.3				
					48.30				
			AW-1	△2.50 × 1.60 × 4	16				
					△16.00				
			AW-2	△2.00 × 1.60	3.2				
					△3.20				
			幅木	△16.10 × 0.10	1.61				
					△1.61				
					27.49				
					⑤				
					27.49				
					(m)				

床			壁			天 井			そ の 他
仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	
			回答例⑥						
			RC面 ビニルクロス コンクリート打ち放し						
			RC面	$(24.55 + 1.60 + 2.00) \times 3.00$	84.45				
					84.45				
			SD-1	$\Delta 1.60 \times 2.00$	3.2				
					$\Delta 3.20$				
			SSD-1	$\Delta 2.00 \times 2.50$	5				
					$\Delta 5.00$				
			幅木	$\Delta 24.55 \times 0.10$	2.455				
					$\Delta 2.46$				
			73.79		73.795				
					⑥ 73.80				
					(m)				
			回答例⑦						
			柱型面 ビニルクロス コンクリート打ち放し						
			柱型面	$7.05 \times 3.00$	21.15				
					21.15				
			幅木	$\Delta 7.05 \times 0.10$	0.705				
					$\Delta 0.71$				
			20.44		20.445				
					⑦ 20.45				
					(m)				

給湯室

仕 上 積 算

床			壁			天 井			そ の 他
仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	
回答例⑪			回答例⑫			回答例⑬			
ビニル床シート コンクリート金ゴテ押え			LGS面 ビニルクロス 石こうボードt12.5			EP塗 石こうボードt12.5、LGS			
全体	3.70 × 2.50	9.25		(3.70 + 2.50) × 2.50	15.50	全体	3.70 × 2.50	9.25	
柱 X2-Y3	△0.70 × 0.35	0.245	ミニキッチン	△1.50 × 2.00	3	柱 X2-Y3	△0.70 × 0.35	0.245	
ミニキッチン	△0.6 × 1.5	0.9	幅木	(3.70 + 2.50 - 1.50) × 0.05	0.47	照明器具 L2	△0.20 × 1.00	0.2	
		8.35			15.03	点検口	△0.45 × 0.45	0.2025	
		⑪ 8.35			⑫ 12.50			⑬ 9.25	
		(m2)			(m2)			(m2)	
全体寸法									
X方向	3.50-0.05+0.25=3.70								
Y方向	2.65-0.10-0.05=2.50								

更衣室

仕 上 積 算

床			壁			天 井			そ の 他
仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	
			回答例⑭			回答例⑮			
			LGS面	ビニルクロス		EP塗			
			石こうボード	t12.5		石こうボード	t12.5、LGS		
				$(3.35 + 2.50) \times 2.50$	14.625			8.375	
					14.63	全体	$3.35 \times 2.5$	8.38	
					0.585	柱		0.245	
			幅木	$\Delta(3.35 + 2.50) \times 0.10$		X1-Y3	$\Delta 0.70 \times 0.35$		
					14.04	照明器具		0.2	
					⑭	L2	$\Delta 0.20 \times 1.00$		
					(m2)	点検口		0.2025	
								⑮	
								8.38	
								(m2)	
			全体寸法						
			X方向	$3.50 - 0.10 - 0.05 = 3.35$					
			Y方向	$2.65 - 0.10 - 0.05 = 2.50$					

備品庫

仕 上 積 算

床			壁			天 井			そ の 他
仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	
回答例⑩			回答例⑪						
ビニル床シート コンクリート金ゴテ押え			LGS面 EP塗 石こうボードt12.5						
全体	21.8075			17.875					
柱	7.15 × 3.05	21.81		7.15 × 2.50	17.88				
X1,X2-Y2	0.98		幅木	0.715					
	$\triangle 0.70 \times 0.70 \times 2$			$\triangle 7.15 \times 0.10$	$\triangle 0.72$				
		⑩		17.16					
		21.81		⑪	17.16				
		(m2)			(m2)				
			回答例⑫						
全体寸法			断熱材面 EP塗 石こうボードt12.5						
X方向	7.00-0.10+0.25=7.15			5.875					
Y方向	2.85-0.05+0.25=3.05			(2.85 - 0.45 - 0.05) × 2.50	5.88				
			幅木	0.235					
				$\triangle (2.85 - 0.45 - 0.05) \times 0.1$	$\triangle 0.24$				
			5.64	5.64					
				⑫	5.64				
					(m2)				
			回答例⑬						
			柱型面 EP塗 コンクリート打ち放し						
				7					
				0.7 × 4 × 2.5	7.00				
			幅木	0.28					
				$\triangle 0.7 \times 4 \times 0.1$	$\triangle 0.28$				
				6.72					
				⑬	6.72				
					(m2)				



間仕切

仕 上 積 算

床			壁			天 井			そ の 他
仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	
			回答例㉔						
			LGS100形						
			壁長さ X方向	$7.00 - 0.10 + 0.25$	7.15			7.15	
			壁長さ Y方向	$2.65 - 0.1 - 0.05$	2.5			2.50	
					9.65 壁長さ 計			9.65	
			壁面積	$9.65 \times (3.9 - 0.15)$	36.1875			36.19	
					㉔			36.19	
					(m2)				

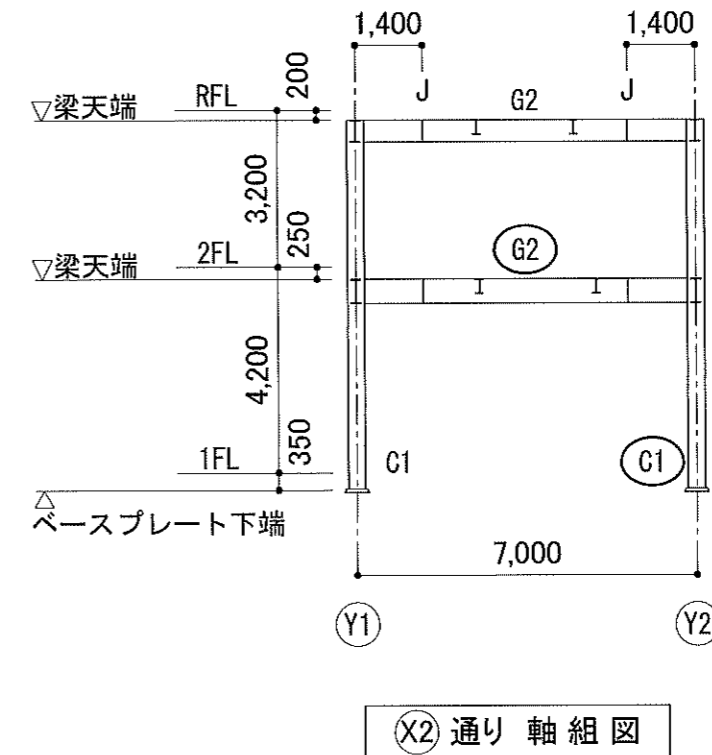
2025年度 建築積算士試験 【二次試験】

問題 IV 図面IV-1からIV-3までについて、以下の1～3の設計数量を「新☆建築積算士ガイドブック」および「建築数量積算基準」に従って計測・計算し、解答用紙の所定の欄に記入しなさい。  
 解答は、小数点以下第3位を四捨五入して、小数点以下第2位までを記入しなさい。

1. 1節柱 C1 [X2通り、Y2通り] 1台
2. 2階大梁 G2 [X2通り、Y1通り～Y2通り] 1台
3. 溶接の数量は、図面IV-2  内 [2階X2、Y2] について、梁フランジとダイヤフラムとの溶接および、梁ウェブと柱との溶接を計測・計算し、すみ肉溶接脚長6mmに換算した延長さ (m) とする。

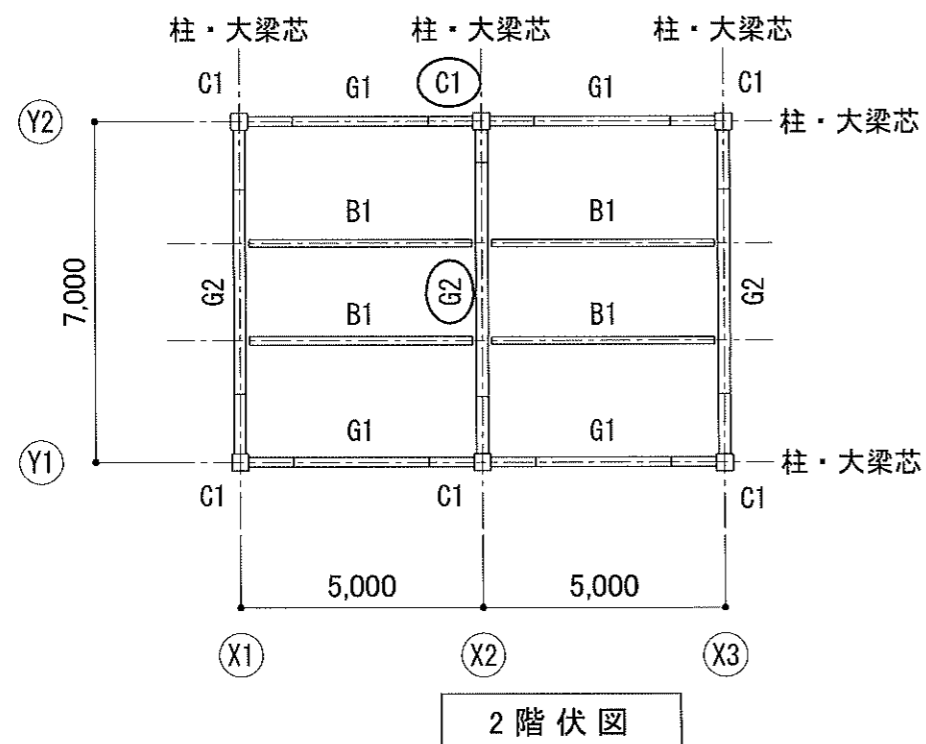
**特記事項**

1. 図面の ○ 印は計測・計算の対象部材を示す。
2. J はジョイント位置を示す。
3. 鋼板の数量は、面積 (㎡) とする。
4. BH (鋼板組立H形鋼) 材は、鋼板として数量を計上しなさい。
5. 高力ボルトの数量は、本数とする。
6. SPL はスプライスプレートを示す。

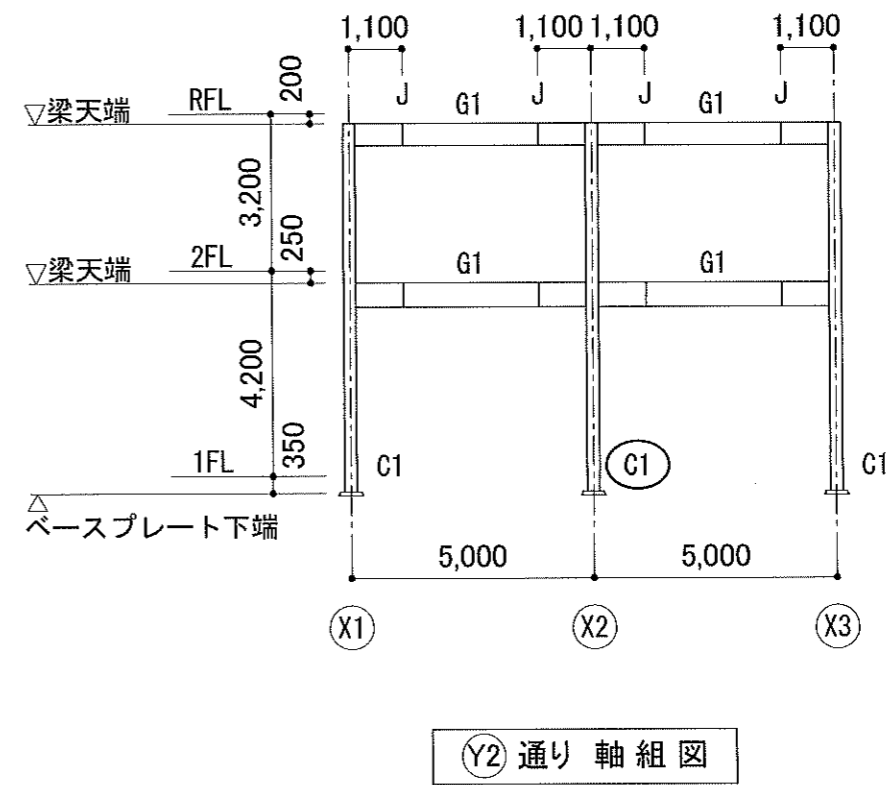


○X2 通り 軸組図

図面IV-1



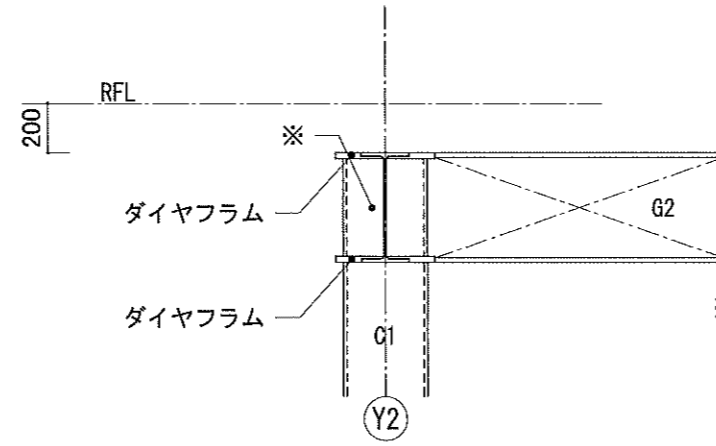
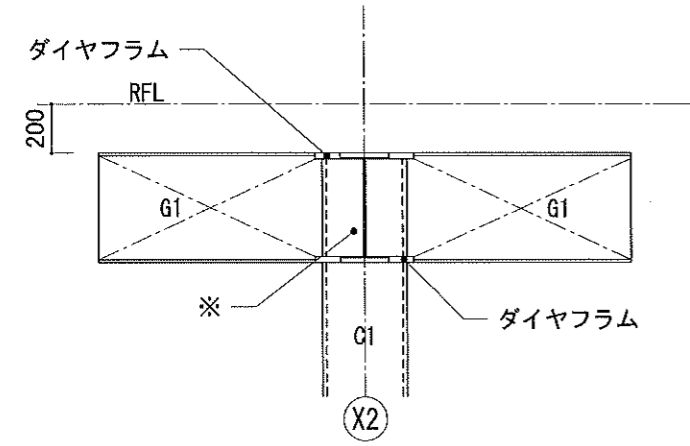
2階伏図



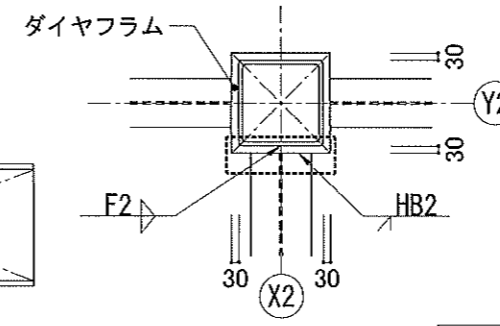
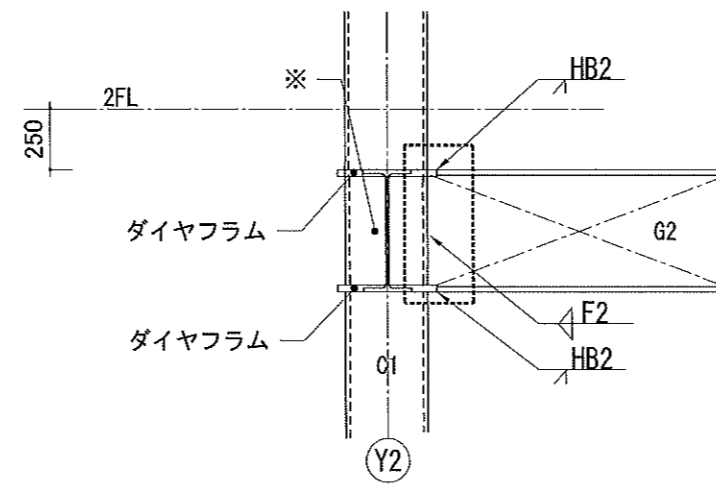
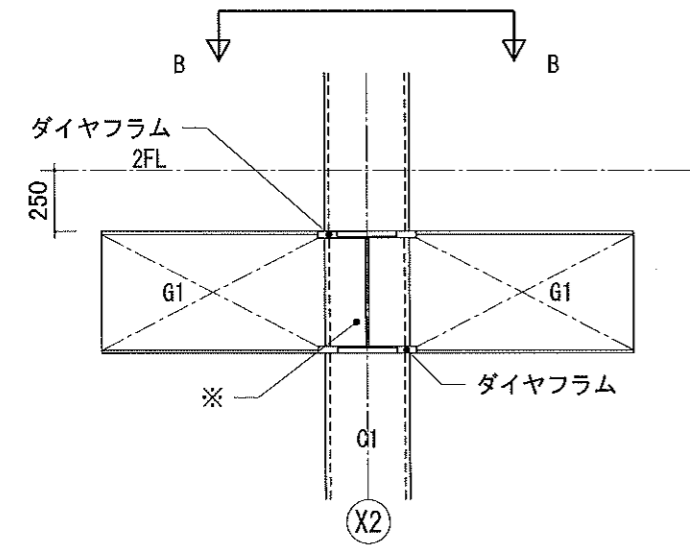
○Y2 通り 軸組図

図面IV-2

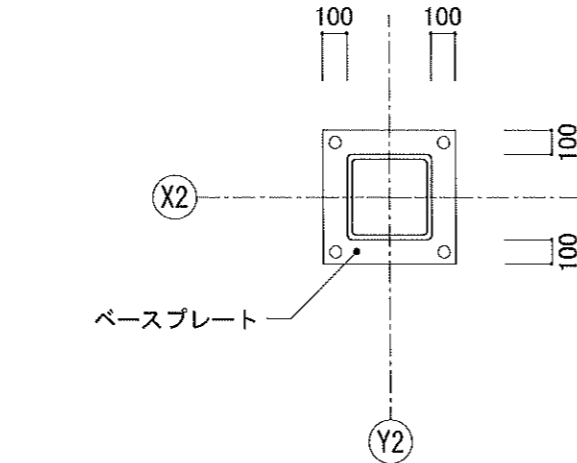
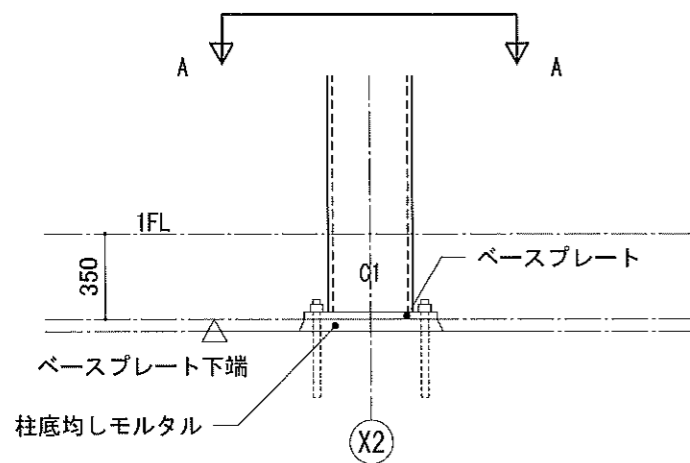
鉄骨標準図



※ 仕口部柱主材は、取付く柱主材の大きい方の主材と同じとする。



B-B断面図



A-A断面図

ダイヤフラム板厚選定表

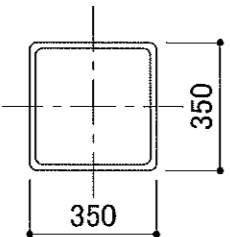
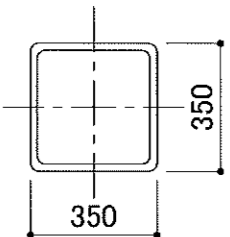
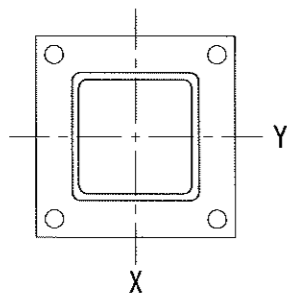
梁フランジの最大板厚 (mm)	ダイヤフラム板厚 (mm)
12	19
16	22
19	25
22	28
25	32
28	36
32	40

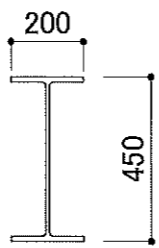
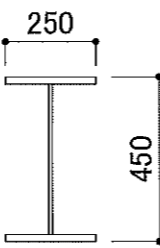
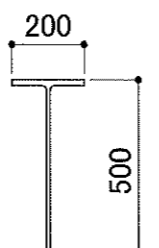
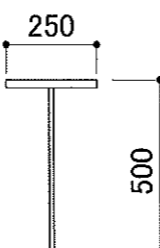
溶接換算表

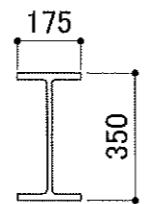
tは板厚、Kは換算係数

F <sub>2</sub>		HB <sub>2</sub>					
t	K	t	K				
4	0.50	14	5.56	14	8.66	24	18.70
5	0.89	15	6.72	15	9.30	25	19.65
6	1.39	16	8.00	16	9.99	26	20.64
7	1.39	17	4.39	17	10.72	27	21.66
8	2.00	18	5.32	18	11.50	28	22.71
9	2.72	19	5.32	19	12.33	29	23.79
10	3.56	20	6.33	20	14.44	30	24.91
11	3.56	21	7.43	21	16.02	31	26.05
12	4.50	22	7.43	22	16.88	32	27.23
13	5.56			23	17.77		

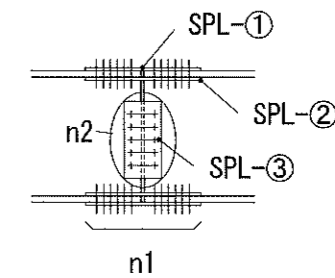
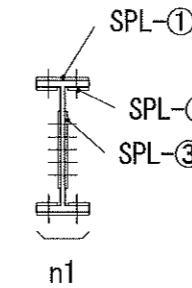
図面IV-3

柱リスト	
符号	G1
2階	 □-350×350×16
1階	 □-350×350×19
柱脚	 ベースプレート PL-28 アンカーボルト 4-M24 L=800(Wナット)

大梁リスト		
符号	G1 (全断面)	G2 (全断面)
R階	 H-450×200×9×14	 BH-450×250×9×19
2階	 H-500×200×10×16	 BH-500×250×12×22

小梁リスト	
符号	B1 (全断面)
全階	 H-350×175×7×11

大梁継手リスト					
符号	フランジ			ウェブ	
	SPL-①	SPL-②	HTB (n1)	SPL-③	HTB (n2)
R階G1	PL-9 200×410	2PL-12 80×410	12-M20	2PL-9 170×290	8-M20
R階G2	PL-9 250×650	2PL-12 100×650	20-M20	2PL-9 170×290	8-M20
2階G1	PL-9 200×530	2PL-12 80×530	16-M20	2PL-9 170×360	10-M20
2階G2	PL-12 250×770	2PL-16 100×770	24-M20	2PL-9 170×360	10-M20



問題 IV 解答 (2025)

部 位	記号	名 称	サ イ ズ	単 位	設 計 数 量
柱	C1	形鋼	H-500×200×10×16	m	① 1.86
			H-450×200×9×14	m	② 1.86
			□-350×350×16	m	③ 3.20
			□-350×350×19	m	④ 4.21
		鋼板	PL-9	m <sup>2</sup>	⑤ 0.51
			PL-12	m <sup>2</sup>	⑥ 0.56
			PL-19	m <sup>2</sup>	⑦ 0.60
			PL-22	m <sup>2</sup>	⑧ 0.60
			PL-25	m <sup>2</sup>	⑨ 0.34
			PL-28	m <sup>2</sup>	⑩ 0.64
		溶接長さ	すみ肉溶接6mm換算	m	⑪ 10.78
大梁	2G2	鋼板	PL-9	m <sup>2</sup>	⑫ 0.24
			PL-12	m <sup>2</sup>	⑬ 2.69
			PL-16	m <sup>2</sup>	⑭ 0.62
			PL-22	m <sup>2</sup>	⑮ 2.10

鉄骨積算

名称	形状・寸法	計算	か所	H-450×200 ×9×14	H-500×200 ×10×16	□-350× 350×16	□-350× 350×19	PL-9	PL-12	PL-19	PL-22	PL-25	PL-28
[ 柱 ]													
	1C1 - 1台												
(シャフト)				柱幅 柱面より出幅 350 + 100×2 = 550									
BSAE	PL 28	0.550	0.55	1	1								0.30
				1階階高 1階下り ベース厚み 2階下り 2階大梁高さ 4,200 + 350 - 28 - 250 - 500 = 3,772									
1F 主材	□ 350×350×19	3.77		1	1								3.77
				2階階高 2階梁下り R階梁下り R階大梁高さ 3,200 + 250 - 200 - 450 = 2,800									
2F 主材	□ 350×350×16	2.80		1	1								2.80
				柱幅 柱面よりの出幅 350 + 30×2 = 410									
(2階仕口) ダイヤフラム	PL 28	0.410	0.41	2	1								0.34
				仕口高さ 上下ダイヤフラム厚 500 - 28×2 = 444									
主材	□ 350×350×19	0.44		1	1								0.44
				ジョイント長さ 柱/2 1,100 - 350/2 = 925									
2G1 MAIN	H 500×200×10×16	0.93		2	1								1.86
ST-1													1.86 2.80 4.21 0.64

鉄骨積算

名称	形状・寸法	計算	か所	H-450×200 ×9×14	H-500×200 ×10×16	□-350× 350×16	□-350× 350×19	PL-9	PL-12	PL-19	PL-22	PL-25	PL-28
2G2 フランジ	PL 22	0.250 1.20	2	1							0.60		
		梁高さ 上下フランジ厚 500 - 22×2 = 456				ジョイント長さ 柱/2 1,400 - 350/2 = 1,225							
ウェブ	PL 12	0.456 1.23		1					0.56				
						柱幅 柱面よりの出幅 350 + 30×2 = 410							
(R階仕口) ダイヤフラム	PL 25	0.410 0.41	2	1								0.34	
						仕口高さ 上下ダイヤフラム厚 450 - 25×2 = 400							
主材	□ 350×350×16	0.40		1	1		0.40						
						ジョイント長さ 柱/2 1,100 - 350/2 = 925							
RG1 MAIN	H 450×200×9×14	0.93		2	1	1.86							
						ジョイント長さ 柱/2 ダイヤフラム出幅 1,400 - 350/2 - 30 = 1,195							
RG2 フランジ	PL 19	0.250 1.20	2	1						0.60			
		梁高さ 上下フランジ厚 450 - 19×2 = 412				ジョイント長さ 柱/2 1,400 - 350/2 = 1,225							
ウェブ	PL 9	0.412 1.23		1				0.51					
ST-2						1.86	0.40	0.51	0.56	0.60	0.60	0.34	



鉄 骨 積 算

名 称	形 状・寸 法		計 算			か 所								長さ m	工場溶接 換算係数 k	延長長さ m	
	C1 - 2階G2梁仕口廻り溶接																
(G2) DF×フランジ	HB2	22	0.25	2	1	1								0.50	16.88	8.44	
				<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">           梁高さ 上下フランジ厚            500 - 22 × 2 = 456         </div>													
主材×ウエブ	F2	12	0.46		1	1								0.46	4.50	2.07	
ダイヤ×ウエブ	F2	12	0.03		2	1								0.06	4.50	0.27	
T																⑪ 10.78	

鉄 骨 積 算

名 称	形 状・寸 法	計 算		か所	PL-9	PL-12	PL-16	PL-22							
[ 大梁 ]															
	2G2 - 1台														
					スパン 継手長さ 7,000 - 1,400 × 2 = 4,										
FLG	PL 22	0.250	4.20	2	1			2:10							
		梁高さ 上下フランジ厚 500 - 22 × 2 = 456													
WEB	PL 12	0.456	4.20		1		1:92								
FSP SPL-1	PL 12	0.250	0.77	4	1		0:77								
	SPL-2	PL 16	0.100	0.77	8	1		0:62							
WSP SPL-3	PL 9	0.170	0.36	4	1	0:24									
T						⑫ 0:24	⑬ 2:69	⑭ 0:62	⑮ 2:10						

## 2025 年度建築積算士試験【二次試験】

## Ⅱ 短文記述試験

## 問題-1

公共工事においてはスライド条項が設けられ、「全体スライド」、「単品スライド」、「インフレスライド」の3種類のスライドが運用されている。  
そのうち2つのスライドについて、概要を「新☆建築積算士ガイドブック」に準じて、**61文字以上200文字以内**で記述しなさい。

## 模範回答

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1	全	体	ス	ラ	イ	ド	は	、	工	期	内	で	、	請	負	契	約	締	結	の
2	日	か	ら	1	2	か	月	を	経	過	し	た	後	に	日	本	国	内	に	お
3	け	る	賃	金	水	準	又	は	物	価	水	準	の	変	動	に	よ	り	請	負
4	代	金	額	が	不	適	当	と	な	っ	た	と	認	め	ら	れ	た	と	き	に
5	請	負	代	金	額	の	変	更	を	請	求	で	き	る	措	置	。			
6	単	品	ス	ラ	イ	ド	は	、	主	要	な	工	事	材	料	の	価	格	に	著
7	し	い	変	動	を	生	じ	た	場	合	に	請	負	代	金	額	の	変	更	を
8	請	求	で	き	る	措	置	で	、	他	の	ス	ラ	イ	ド	と	の	併	用	も
9	可	能	。	い	ず	れ	も	残	工	期	が	2	か	月	以	上	あ	る	工	事
10	に	摘	要	さ	れ	る	。													

(新☆建築積算士ガイドブック P34～35)

2025 年度建築積算士試験【二次試験】

問題-2

工事費内訳書にメーカー見積単価を採用する際、ミス防止のために確認すべき事項を、「新☆建築積算士ガイドブック」に準じて、**61文字以上200文字以内**で記述しなさい。

模範回答

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1	①	採	用	単	価	は	、	各	細	目	ご	と	に	最	低	値	を	採	用	す
2	る	の	か	、	見	積	グ	ル	ー	プ	ご	と	に	合	計	が	最	低	金	額
3	の	見	積	単	価	を	採	用	す	る	の	か	。							
4	②	見	積	条	件	に	揚	重	費	、	現	場	取	付	け	費	な	ど	の	別
5	途	項	目	が	な	い	か	。												
6	③	見	積	書	の	有	効	期	限	や	引	き	渡	し	場	所	な	ど	。	
7	④	指	定	メ	ー	カ	ー	や	推	奨	メ	ー	カ	ー	が	な	い	か	。	
8	⑤	値	入	後	は	、	見	積	対	応	項	目	の	合	計	金	額	を	採	用
9	掛	け	率	で	割	り	戻	し	た	金	額	と	、	見	積	書	の	合	計	金
10	額	が	合	致	し	て	い	る	か	。										

(新☆建築積算士ガイドブック P288)